



# 行 紀 能 翁

文と絵 二井 栄 逸

深夜の鐘をききながらペンを取った。七〇年が今年終らんとし、きびしかったこの七〇年。除夜の鐘は一つ一つの出来ごとを思ひ出させるように七〇年と七二年のさかいを鳴りつづける。其の鐘の音は人々の心を洗いきめるように夜半の山河をわたってゆく。まことに心よいしめく、りなのである。

家々では明るい灯の下でそれぞれしあわせを分かち合っているであろう、そして、七一年の光景が東の空を黄金色に染め始めるのと同時に人々は心を新たにステータトを切るのである。

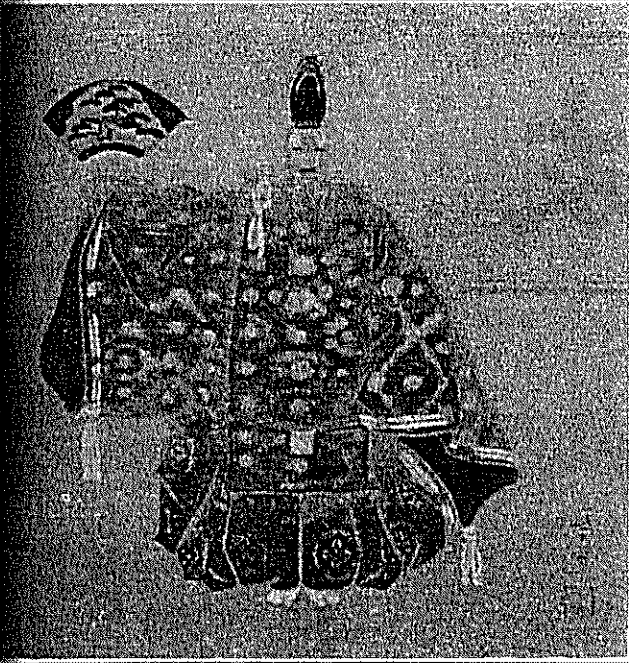
世界の国から今日わ、愛し合ひ助けあい、世界は一年一年友好を

深めてゆくことはたしかである。信じ合う世界、それは国と国、人種と人種の間の誤解や偏見をなくし、お互いが知り合うことによつて、即ち教育、科学、文化の世界的交流によつて無知と猜疑心を無くし、人々の心の中に平和の芽を育てることによつて実現する。

国内においても、生かされていく喜び、生かす喜びを一人一人が体得するならば激突も争論も無い筈。生かされる喜び、生かす喜びを知るものには懷疑もなければ恐怖もない。

ひっそりと鐘の音が絶えた後、じつと机上の花を見る。元朝を迎える為生けた白玉権の一輪がきびしまでに清潔さを示している。何故か自決した三島由紀夫の顔と白鉢巻が目に見えてくる。平等な陽の光にあたり、められたこの一輪の花を見てみると、限られたいのちの中に、その天分を伸ばし、一杯に咲いたいちらしさに崇高な感激をおぼえる。道一筋という尊さ、きびしさをこの様も持っているんだな、と私は思う。

古人の残していった芸術は、新しいとか、古いとかという時間的生命的に支配されることなく、時代を超えて永遠に生命が躍動する。自らのいのちを打ち込んで築き上げた自らの世界を持つもの、強さは永遠に生きるといふことであらうか。



## 演 能 案 内

名古屋 清 韻 会 大 会  
昭和四十六年一月十五日(祭) 十時始  
熱 田 神 宮 能 楽 殿

### 四十六年度新役員を決定

#### 能楽協会名古屋支部

相談役 西村弘敬 (願不同)

能楽協会名古屋支部では、新春三日、総会を開催、昭和四十六年度役員改選の結果、支部長田鍋惣太郎氏の重任はじめ新役員をつぎのとおり決定した。(敬称略)

支部長 田鍋惣太郎  
副支部長 高安滋郎、柴田初太郎  
常議員 林甲子夫、河村健二、殿島修二、加藤文太郎、杉村竹翠、内藤泰二、竹腰勝一、二井栄逸、山田仁三郎、前田昌弘、井上昌次郎、佐藤三郎三

#### 名古屋市文化サロン

「日本の美しさ」で開講

名古屋市教育委員会と中日文化センターは、第二十四期名古屋市文化サロンを開講、テーマは「日本の美しさ」で催している。

講師はその道の専門家が担当、二月二十五日には、室生流能楽師

NHK第2毎週 日曜午前8時~9時

### 1月放送予定

10日(日)	朝世流	「鉢木」	観世鏡之丞ほか
17日(日)	金春流	「檢堀」	桜間道雄ほか
24日(日)	金剛流	「熊野」	金剛殿ほか
31日(日)	宝生流	「葛城」	大坪十喜雄ほか
	狂言	「節分」	野村万之丞ほか

磯の香がた、よう鳥羽では毎年四月十一日に賀多神社の能舞台で奉納能が催されているが、先年、ゆかりのある稲垣秋氏、鳥羽の古老、野島氏のはからいで宝物の能面を数種写生させて貰ったことがあった。神社には、能装束、能面は原文化財に指定されているが、現在等数多く保管されているが、この能面、装束類は、昔、鳥羽の城主(稲垣摂津守)へ藤室家からこし入れの際、納められたもので、其の後、城主から賀多神社に奉納されたものと伝えられている。

昭 和 四 十 六 年 賀 正		昭 和 四 十 六 年 賀 正	
大 西 信 久	大 西 智 久	山 本 博 之	山 本 勝 一
鎌倉能の会	中 森 晶 三	大 垣 浦 声 会	上 田 観 正 会 能 楽 堂
中 森 貫 太	誠 交 会 奥 善 助	大 垣 浦 声 会	上 田 照 也
邦 謡 会	東京都世田谷区三軒茶屋二一〇一二二 電話(〇三三) 四三二二六三七番	正 楽 会 加 藤 丈 太 郎	神 戸 市 長 田 区 大 塚 町 二 一 一 六
名 古 屋 市 千 種 区 青 柳 町 五 一 一 五 電 話 (七 四 一) 四 六 七 五 番	嘉 詔 会 加 藤 総 兵 衛	大 垣 浦 声 会	神 戸 市 長 田 区 大 塚 町 二 一 一 六
春 般 会 真 柄 米 次	名 古 屋 市 千 種 区 伊 勢 山 町 三 七 電 話 (三 二 一) 四 七 四 一 番	大 垣 浦 声 会	神 戸 市 長 田 区 大 塚 町 二 一 一 六
観 劇 会 芥 川 秀 子	大 垣 市 竹 島 町 善 念 寺 住 所 京 都 市 左 京 区 下 鴨 芝 本 町 五 八	大 垣 浦 声 会	神 戸 市 長 田 区 大 塚 町 二 一 一 六
名 古 屋 市 千 種 区 高 橋 詰 町 五 三 電 話 (八 四 一) 四 六 三 二 番	大 垣 市 竹 島 町 善 念 寺 住 所 京 都 市 左 京 区 下 鴨 芝 本 町 五 八	大 垣 浦 声 会	神 戸 市 長 田 区 大 塚 町 二 一 一 六
面 作 り 五 十 年 島 三 友 能 面 頒 布 会	大 垣 市 竹 島 町 善 念 寺 住 所 京 都 市 左 京 区 下 鴨 芝 本 町 五 八	大 垣 浦 声 会	神 戸 市 長 田 区 大 塚 町 二 一 一 六
清 光 会 岡 田 光 紘	大 垣 市 竹 島 町 善 念 寺 住 所 京 都 市 左 京 区 下 鴨 芝 本 町 五 八	大 垣 浦 声 会	神 戸 市 長 田 区 大 塚 町 二 一 一 六
寶 生 九 郎	大 垣 市 竹 島 町 善 念 寺 住 所 京 都 市 左 京 区 下 鴨 芝 本 町 五 八	大 垣 浦 声 会	神 戸 市 長 田 区 大 塚 町 二 一 一 六
水 道 橋 能 楽 堂	大 垣 市 竹 島 町 善 念 寺 住 所 京 都 市 左 京 区 下 鴨 芝 本 町 五 八	大 垣 浦 声 会	神 戸 市 長 田 区 大 塚 町 二 一 一 六

泉 壺 嘉 夫 会  
名古屋 清 韻 会 大 会  
昭和四十六年一月十五日(祭) 十時始  
熱 田 神 宮 能 楽 殿





観世会定式能 四十六年度初会

二月十四日(日曜日)午前十一時始  
熱田神宮能楽殿

難波 舞 唯子 組  
柴田初太郎 吉田定男 鬼頭八郎  
田鍋洋一 鬼頭季信  
地謡 殿島六郎 塚本秀雄  
竹内六郎 高野瀬武

弱法師 喜之 西村弘敬 寛 勉一 寛 三男  
盲目之舞 田鍋忍一郎

末 狂 井上松次郎 井上礼之助 大野弘之  
子方 河村徳三 藤井邦久 井上礼之助

真之 大佐藤秀夫 大観元正 高安 滋郎 谷口喜代三 藤田六郎兵衛  
草子洗小町 高安 滋郎 田鍋忍太郎

野 観世元昭 西村欽也 吉田定男 鬼藤喜太郎  
守 黒頭 佐藤秀雄 福井啓次郎 藤田昭彦  
後見 塚本秀雄 地謡 岡田光枝 高野瀬武  
大槻秀夫 加藤兵衛 藤井久雄 林甲子夫

東 山 姥 武田太加志 梅田邦久  
腋 北 山本博之 地謡 武田邦三  
藤井久雄

林 忍(十五分) 後藤 契雲 久田秀雄  
柴田博之 加藤丈太郎 野村太四郎  
山本博之 後藤丈太郎 野村太四郎

附祝言 主催 名古屋観世会  
後援 中日新聞

名古屋観世会定式能の日程と番組

名古屋観世会の昭和四十六年度第二回以降定式能予定番組はつき  
のとおりである。  
また九月十二日には観世左近道管能(別会)が催される。

第二回 四月十八日 山本博之 武田太加志 観世須之丞

第三回 六月二十日 橋岡久共 大槻秀夫 観世秀夫

第四回 八月八日

三井寺 大槻秀夫 観世秀夫

拍子謡について

大槻秀夫

観能の手びき 1月の能 熱田神宮能楽殿

井筒 山本勝一・浦田保利  
山姥 藤波重和・浦田保利  
自然居士 片山博太郎  
野宮 梅若六郎  
紅葉狩 上田照也

唐土の後漢の時代に、王伯・王母という夫婦に「天鼓」と名づける子供があった。或る時、天鼓のももへ天から真の鼓が降ってきたが、その音はまことに妙なるものであったので、帝王はその鼓を内裏にとり寄せようとした。しかし天鼓はそれを借して山中に隠れたので、帝王は、鼓を借しむ彼を水に沈め、鼓を手許にとり寄せたが、その後その音は絶えて鳴らなくなってしまった。  
そこで天鼓の父王伯に打たせてみようということになり、勅使(ワキ)が王伯のもとを訪れる。王伯(シテ)は子をつ失った悲愴の涙にくれ、辱め、宮殿へと向う。そうして恐る恐る鼓を打つと、心耳を澄ます音が、親子の深い絆をこの鼓は人々に知らせるのである。帝王は王伯に鼓の宝をさづけ、天鼓は王伯に鼓の宝をさづけ、天鼓の帯をすくと、天鼓の帯(後シテ)が夜の水上に現れ、用いこる、夢幻と消え失せてしまった。  
天鼓の能は、ワキとシテの二人によって上演されるが、実は勅使(ワキ)と王伯(前シテ)と天鼓(後シテ)という三人の人格によって成り立っている。帝王の行動・心情は王伯の言葉によって語られて処理されて、その後半は王伯の悲愴が延々と述べられ、後半部では天鼓が成仏したことによる嬉々とした舞楽が中心となつてゐる。その為、前半の「悲」・後半の「喜」という対称の妙と、世阿弥の云う序・破・急の理論が見事に展開されている名作といふことが出来る。

うづは猿 大名 野村又三郎  
舞台はうららかな春の野、供を連れて狩りに出でた大名。猿の毛並みにみとれ、観に掛けたので貸せとの無理難題に猿は……喜怒哀楽を劇中に十二分に織り込み、人間味を湧き出させる狂言。そして無心に悦びの舞を舞う小猿の姿。涙と笑い……舞踊にも取り入れられている狂言の傑作。

葛城 山姥 山姥は山姥の山姥が和の国葛城山に修行の為入山すると、折しも深く雪が降り始める。すると一人の女が山伏に声をかけ、谷險の道をたどり、山姥の庵に招き入れ、雪の小枝を解き、炬火に焚き、夜寒の一夜を過ぎさせる。山姥が後夜の勤めをはじめようとすると、女は自分に三熱の苦しみがあるから折り返してほしいと頼み、実は自分が葛城の女神であると云う。かみかみかみかみかみかみ、山姥が夜もすがら折ると、俄々たる山の陰から女神があらわれ、神楽歌をはじめ大和舞を奏でるが、夜の明けると岩戸の内に姿を消してしまふ。  
葛城山は大和と南河内の境にあり、役行者(えんのさようじや)の修行した山で、霊場となっている。又葛城の女神は容貌が醜いといふ云い伝えがある。そうして役行者がこの女神に、葛城から大峰へ岩橋をかけることを命じたが、女神は容貌のみにくさを人に見られるのを恥じて夜の仕事を断つた。役行者の怒に触れて呪縛されたといふ伝説がある。  
これらのことがこの葛城の能の伏線となつてゐる。前半部にはこの葛城の能の結ぶたいに女が一人現れる異様な風情を、後半部では雪の深山の結ぶたいに女が一人現れる異様な風情を、後半部では

昭和四十三年賀正

金剛流松風社 片野東四郎

佐野正治 金沢市広坂二丁目二十二

金剛 巖 大川嘉奈子

金剛 永謹 和島富太郎

豊嶋弥左衛門 宝塚市宝梅一丁目十二

金剛流春鶯会 山田仁三郎

中部金剛会 山田仁三郎

今井幾三郎 朝日文化センター

東京・京都・名古屋 喜多流 山本才

菊扇会 長田正宜

広田泰三 衣斐正宜

金剛流 清風社 吹田市山手町二丁目三十一

大塚清風社 西村欽也

廣田後援会 西村欽也

廣田後援会 西村欽也

廣田後援会 西村欽也

昭和四十三年賀正

京都府乙訓郡長岡町 岡治郎右衛門 電話(075)931-117

京都高安会 岡治郎右衛門 電話(075)931-117

高安流白水会 和泉太郎 東京都品川区三葉三十八-12 電話(七八六)四〇九二番

谷田宗二郎 京都市北区衣笠街道町31-7

高安流 山崎俊輔 高安流 山崎俊輔 電話(836) 大牟田市馬場町五七

福王茂十郎 大坂市東区平野町一ノ二五

福王王会 西宮市名次町六ノ二

福王照幸 大蔵弥太郎 義嗣

茂山忠三郎 吹田市山手町二丁目三十一 電話(388) 三五二八

野村又三郎 電話(291) 2488-3555

やるまい会 電話(231) 1911

流元 店

電話(291) 2488-3555 電話(231) 1911





### 観能の手びき

梅若 実師 追善能  
一月三十一日 能楽殿

本曲は、佐藤維信、忠信兄弟の母親(佐藤莊司の後家)が、義経主従が十二人の作り山伏となって陸奥へ下る事を聞き、義経一行に逢わんことを願って、山伏接待を思い立ち高札を立てた。

折よく通りかゝった義経一行は、さあらぬ態で立寄り接待を受けようとする、一人の子供(子方鶴若)が立現われたので、ワキ(弁慶)は其方は誰の子かと問えば子供は佐藤維信の子と答える。ワキは維信はお内に見えと、そ知らぬ態で尋ねると、判官殿の御供して八島の合戦に討たれたと云う。そして貴方は十二人あるからとつと判官殿の御一行であろうと云う。

ワキはいよいよ違うと否定する

### \*私の健康法にながる\*

#### 発声法\*

柴田 初太郎

この発声法は左記の医学博士御両名の説と一致しています。

故二木謙三博士、また他の御一人は村木弘昌博士であります。

二木謙三博士は、創元社発行の「静座のすすめ」という本にありま

す。又村木弘昌博士の記事は、大浦孝秋先生主宰の、「人間医学」に掲載されて殆んど同様の記事で私の最も信用し実行している呼吸法と一致しております。右の二説を次に掲げます。

それは横隔膜呼吸の事です。その横隔膜の上下動呼吸が如何に健康に有効であるか。以下述べたいと思ひます。

故二木謙三博士の腹式深呼吸が推賞せらるる所以はつぎの理由による為であります。

第一 肺にある悪い空気がことごとく外へ出る。

第二 横隔膜が下りて血のめぐり

そこへシテ(佐藤維信の母尼)が現われ、山伏の十二人がお前と云うから定めて義経一行であろうと云う。

ワキはこれはたゞ山伏の三人、五人行連れて十二人になった文である、一応は否定するが、佐藤維信の母であるならば判官殿の身内の人々を知って居られるであろうから、名を指してごらんなきいと云えば、次々と山伏の中から身内の人々の名前を指し当てるのでありとうとう隠し切れず、義経一行である事を名乗ってしまった。

そして母尼の語により、義経の命を受けて、ワキ弁慶は維信が八島の合戦にて義経の身代りとなつて討たれた事、忠信が兄の敵を討つた模様を物語り母尼に聞かせた。母尼は今も亡き吾が子を偲んで一行の為に酒を勧める、維信の遺子鶴若も終夜お酌に立ち廻り、山伏達の接待をつづけた。

さて夜もほのぼのと明けて来たので、一行は暇を申し立出でようとする、鶴若も皆と一緒に義経の御供申そうとせがむが、一同にいろいろと慰めすかされて、涙ながらに一行を見送る、と云う筋書になって居る。

この曲の見どころ、聞きどころは、シテの出の一声からサンシテ、山伏の名前を一人一人判官の身内の人を指し当て、行く問答のあたり、又ワキの八島にて維信の最後を物語る語りなど、節の部分よりも詞の部分にある。

安宅と共に現行曲中の人数物でシテが老女で所作の少い大曲とされて居る。劇能によく見られる舞台面の混雑がなく、文意の移り変わりも滑らかで、維信の母が子を思う至情、子の鶴若の父を慕う哀情、維信忠信の主に対する忠節、義経の部下を思う心情等、武士道の大切な徳行をすべてに表現して居り、感激深い曲である。

故二木博士の説によれば、まず心臓から押し出す動脈というものは力強いけれども、吸い入れる力が無い。それではなぜ心臓に還ってくるかという、これは医学上千古の疑問で、今日迄なお充分に解決のつかない問題であるとの事です。

これがどうして心臓に還るかとお申すと、まず心臓から押し出されるときに、その血の半分は手、頭、足、胸等に流れて行き、半分は腹に流れて、腹にその血が沢山溜まるようになる。そして心臓が空になる。すると組織の弾力と腹には圧力があるために、腹の血管がその圧力で収縮して、今度は心臓の方に血が還ってくる。

すなわち最初押し出されるときには心臓から腹の方へ血が入ってくる。それから心臓の空になった腹は、腹の血管が押し出す力と、心臓の圧力とで、血が心臓の方に還ってくる。

このときにもし腹の張りの弱い人はどうかという、血が腹に溜まりきりて(もともと血管壁の弾力で少しは還るが、それだけでは不充分なので、心臓の方にたたく上からならぬ)そこで腹式呼吸によって横隔膜を下げれば、はじめに充分に心臓に血が還ってくる。

人間の身体の血の循環はどうかという、普通の身体の人でも二升五合(四・五リットル)より多いことはない。

そしてその血液の分配は二升五合のうち半分は以上は腹のなかに入り、他の四分の一で筋肉を養い、その他の四分の一で脳とか皮膚とか。他の内臓を養うのだ……

こういうふうには血液の分配はちゃんと定まっている。しかるに横隔膜が弛緩していると、もとより組織や血管の弾力でそれを制限しているけれども、まだまだたくさん血は溜まるものだから、ここに二分の一以上の血液が腹部に入るようになる、今度は全身に回る血が少なくなつて貧血になる。こういふ人は身体の圧力の持ち方

## 昭和四十三年賀正

能楽協会名古屋支部  
名古屋能楽鑑賞会  
かすみ会  
田鍋惣太郎  
別宅住居 名古屋市瑞穂区弥富町月ヶ岡43  
電話 (832) 二七〇三番

藤田六郎兵衛	藤田昭彦	龍吟会	たなびき会	田鍋惣一郎	幸友会	福井啓次郎 福井良久 柳原富司忠	吳竹会	算三男	算鉦一
--------	------	-----	-------	-------	-----	------------------------	-----	-----	-----

長生会	鬼頭八郎	鬼頭喜太郎	野崎太郎	池田茂	助川竜夫	山口義郎	山田義郎	朝日文化センター 雛子教室 田鍋惣一郎 算三男	謹賀新年 能楽の友社 同人一同	森久雄 藤井久雄 森茂好	久保田千三郎
-----	------	-------	------	-----	------	------	------	----------------------------------	-----------------------	--------------------	--------

民芸料理

# 乃志乃

中区栄4丁目9-5  
電話 241-9078番


居酒屋・おでん・おにぎりの店

# おう友

千種区・大久手電停東一筋北入る  
電話 731-2477

あなたに心をこめておくりする……

## 富士道の婚礼道具



### 家具の富士道

本社 名古屋市中区栄3丁目34番40号  
TEL 代表 (262) 5547  
工場 愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178

友社  
(吹上本町2-20 464)  
1) 7984  
5 屋 36393  
1年 300円  
1年 400円  
30円

演能  
して

のみなさんごの万博博覧会関係で、正規の万博協会主催の催しとして、大阪フェスティバルホールでの「万国博能」(五月三日)と万国博ホールでの「万国博能」(五月三日)と

またことしは愛知県の勤労者を中心に一般市民の利用に供する総合福祉センターとして、鶴舞公園前に十六億円の高費をかけて建設

会能 (有料)  
能 (有料)  
集能 (有料)

古屋支部  
盟能 (有料)  
会能 (有料)  
番組2面)

泉嘉夫の三人を観る会 (有料)  
追善能 (有料)  
番組2面)  
神宮能楽殿

田山田三郎  
福井良久  
地謡  
河村総一郎  
伊藤大進  
近藤三郎  
野村四郎  
東三郎  
藤原四郎  
大進



東京新聞 中日新聞 中日入部 東京中日スポーツ 月刊 岳人

能楽の友

発行 能楽の友 名古屋市中千種区吹上本町2-20 (郵便番号 464) 電話 (731) 798 振替口座 名古屋 36393

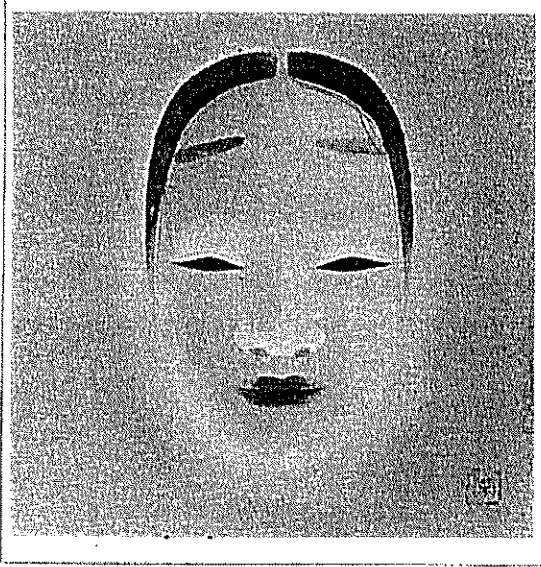
題字は熱田神宮 篠田宮司筆

アメリカ、カナダ各地で

今春、アメリカ、カナダ各地で能・狂言が海外公演される。これは、日本ゼネラルアーツ主催の「アメリカ・カナダ訪問、日本能・狂言団」で、一行は、団長桜間金太郎師、副団長野村万作師ら二十三人。名古屋から狂言方、野村又三郎師(海外公演五回目)大政方・河村総一郎師ら加わり、三月三日羽田を出発、米国ではニューヨークカーネギーホールでの公演をはじめ、ワシントン、

高安流 西村弘敬氏が受賞

CBCクラブの年間最大の行事であるCBC文化賞(くちなし章)第十二回受賞者は、一月十九日発表されたが、能楽関係でワキ方高安流・西村弘敬氏が選ばれ、二月二日午後四時から中部日本放送ホールで受賞式が行われた。西村弘敬氏は、明治二十年九月九日生れ、八十三才、名古屋市瑞穂区玉水町二ノ六四。西村家は、初代西村庄兵衛長久(京都在住)、初尾浪瀬二代光友三代綱波師のお抱え能楽者となり、二代目西村庄兵衛師が尾張に移住(高安流門人筆頭)。西村



「増」二井栄逸画

第16回中日五流能

3月28日(日) 中日劇場で中日新聞社主催、第十六回中日五流能は、三月二十八日、中日劇場で行なわれる。公演のうち能楽は、次のとおりで、第一部は午前十時開演、第二部午後四時開演。

- 第一部 (宝) 景清 近藤 乾三 (観) 三井寺 梅若万三郎 (春) 天鼓 金春 信高 (剛) 春日龍神 金剛 巖

成人の日祝して 少年能楽鑑賞会

岐阜県ユネスコ協会 岐阜市教委が主催

さる一月十五日、成人の日を祝して、岐阜市民会館で「青少年能楽鑑賞会」が開催された。この催しは、岐阜県ユネスコ協会、岐阜市教育委員会が主催、若手能が協賛、能「羽衣」(シテ浅井宏彦)「隅田川」(シテ梅田邦久)「正尊」(シテ浦田保利)の三番、狂言「附子」(野村又三郎ほか)素謡「俊寛」ほか舞獅子、連吟、仕舞など。

演能案内

Table with columns for dates and event names. Includes '観世会定式能 四十六年度初会' and '演能カレンダー'.

演能案内

観世会定式能 四十六年度初会 二月十四日(日曜日)午前十一時始

熱田神宮 能楽殿

難波 能楽殿

弱法師 能楽殿

末広 能楽殿

草子洗小町 能楽殿

野間 能楽殿

黒守 能楽殿

野間 能楽殿

名古屋梅猶会能 二月二十一日(日) 午前十一時始 熱田神宮 能楽殿

名古屋梅猶会能 二月二十八日(日) 午前十時始 熱田神宮 能楽殿

たなびき会 二月二十八日(日) 午前十時始 熱田神宮 能楽殿

たなびき会 二月二十八日(日) 午前十時始 熱田神宮 能楽殿

たなびき会 二月二十八日(日) 午前十時始 熱田神宮 能楽殿

たなびき会 二月二十八日(日) 午前十時始 熱田神宮 能楽殿

縦、まだある、まだある、... 能楽の友の海外公演... 演能案内... 名古屋梅猶会能... 演能案内... 演能案内...

小料理 名物



# 能 紀 行

逸 栄 井 二 文 と 絵

雪の季節である。雪と言えは葛城という美しい能がある。野趣と風韻に満ちた能で誰かが好む曲である。

## 東京新観世会館

今春3月に着工  
東京、大曲の観世会館は、高速度道路建設、都道の拡張また地下鉄工事にて、かねて移転を考慮中であつたが、このほど渋谷区に好適な建設用地八四〇坪がきまり、いよいよ本年三月着工する。

## 湊川神社能楽殿

復興再建の動き  
神戸・湊川神社の能楽堂は戦災で焼失したが、かねて能楽堂再建の要望があり、このほど復興の

## 神戸

復興再建の動き  
かねて能楽堂再建の要望があり、このほど復興の

## 大阪

四月にフェス  
フェスティバル協会主催、朝日新聞社後援で、四月十八日午後一時から大阪・中之島・フェスティバルホールで「フェスティバル能」が催される。

## 4月にフェス

フェスティバル協会主催、朝日新聞社後援で、四月十八日午後一時から大阪・中之島・フェスティバルホールで「フェスティバル能」が催される。

ですよ、と話してくれたことがあつた。雪は白色の代表であるが陽にすかすと虹色に見え、夕暮になるとほんのりとすみれ色にけがらつて民話劇でも生れそうな情景になる。

### これこそ大衆能

喜多・和泉・観世合同会  
前田 満穂

よく能の大衆化ということが云われませんが、一月二十四日に熱田能楽殿で行われた喜多、和泉、観世三流合同会などは、大衆向きの催しとしては格好のものではなかつたかと思ひます。能三番(天鼓)「葛城」と狂言一本「朝顔」仕舞五番と独吟一曲、間に休憩十分をとった余裕のある能組は、まことに簡潔で親しみ易い会でした。しかも内容はなかなか充実して、見ごたえがありました。大家、名匠の惹味を求めるのは無理ですが、曲の面白味を忠実に表現しようとする演者の意図は確かにくみとれました。

来るでしょうか。多くの事例をあげるまでもありません。能の入門、能趣味の普及という効果を認めるとしても、一方で能を甚だしく誤解させるおそれなしとしないでしょう。能はあくまで本式の能舞台で見るべきものです。それでは大勢の観客を収容できないではないか……と云われますか。さよ、少数の観客を見所にする以外に方法のないのが能という芸術の宿命だと思ふのです。それでは商売にならぬ……と云われますか。さよ、商売にはなりません。そもそも能が商売にならぬ(らしい)現状が私には合点がいかない。商売にならぬはずのものが商売になつてゐるのはどういうわけですか。資本主義社会はすべてのものを商品化なりという公式論では、この場合答にはなりません。

故	前川 齊氏 追善	二月二十一日(日) 午前九時三十分始	岡崎市 岡崎市民会館
壺	泉 能 会		
舞	雲雀 山 泉	嘉夫	八田 源一 寛 三男
舞	蛭 丸	小林 辰雄 藤井 才次	塩瀬 和子
舞	雲林 院	小山富美子	吉田 定男 野末 一 茂
舞	高 砦	柴田うた子	後藤 孝一 芳昭 寛池田 三男 三男 茂
舞	三井 寺	子方 河村真之介	吉田 定男 寛池田 三男
舞	二人 静	子方 篠原 敏枝 類朝 洋造 宮崎 悟	中西 和子 杉浦 米子 中西 正雄
舞	七騎 落	鞍馬 天狗 笠之 段	宇佐美 元裕 土川 浩 伊奈 勲 塩瀬 和子 松村 久枝
舞	法師 熊	新家 真三	柴田 正男 藤田 昭彦
舞	善知 鳥	米田 田鶴 粟生 歌女子	田鍋 一郎 藤田 昭彦
舞	東 北	杉浦 芳枝	田鍋 一郎 藤田 昭彦
舞	大江 山	木邨 装子	吉田 定男 藤田 昭彦
舞	藤 戸	谷野 博	田鍋 一郎 藤田 昭彦
舞	寝 音 曲	植田 隆之亮	辻 芳昭 鬼頭 喜太郎 藤田 昭彦
舞	狂言 寝 音 曲	佐藤 卯三郎	井上 礼之助

してその追憶はいつまでも新鮮であつて忘れ得ない。ほつたを真赤にして雪ダルマを作つた子供の頃のことや、旅行先で雪になつたこと等、鮮かに思い出させてくれる。その時、いっしょに居た人達の顔等もなつかしくよみがえつてくる。雪は美しいものの最上の言葉なのか、どこの宿や料亭にも不思議にユキと呼ぶ女がいるものである。そして色白の娘が多い。色が白からユキとつけるのだからか。

なかでも狂言「朝顔」は、大名(又三郎)と猿蓑(万作)の息の合ったやりとりは、いまでもありませんが、野村武司君の猿が、その可愛さ、いじらしさで見所のカツサイを博しました。芝居風に云うと、子役が舞台をさらったことになりませんが、これは仕方ありません。「天鼓」(和島富太郎)「葛城」(泉嘉夫)、前者は喜多独特の演出に一刀影の太い線の味わい、後者は細心の筆使いにほのかな情感をたよませ、ともに中堅の腕達者らしい確かな手並みのほどを見せていました。

能、いわば他流試合の劇場能と内輪同志の流儀能との中間を行く一挙両得型です。加えて、もっともつと門戸を広くし、学者、研究者の解説とか、演者と観客の交流など、会の構成に思い切つたアイデアを盛る工夫をしていくと、能の大衆化にさらに数歩、いや数十歩の前進が可能だと思ふのです。

能	融	狂言 寝 音 曲	植田 隆之亮	辻 芳昭 鬼頭 喜太郎 藤田 昭彦
舞	寝 音 曲	佐藤 卯三郎	井上 礼之助	

# 拍子謡について

大 槻 秀 夫

「声をしるべに」の返し句より  
1 2 3 4 5 6 7 8

直ちに実例を挙げて割付けながら、説明に入る事にする。  
例一 船弁慶キリ

追善 春季大会 三月七日(日) 午前九時三十分開曲  
熱田 神 宮 能 楽 殿  
番外開曲 歌 親世 武雄 菊池 忠次

〒送受託者のなかで、住居表示変更その他により、住所名が変更された方は、まことに手数がかかりますが、新住所をお知らせ下さるようお願い申し上げます。



建設用地八四〇坪がきまり、いよいよ本年三月着工する。  
新観世会館建設用地は、渋谷区松涛町の旧湯島町で、能楽堂と

神戸・湊川神社の能楽堂は戦災で焼失したが、かねて能楽堂再建の要望があり、このほど復興の

大阪・中之島・フェスティバルホールで「フェスティバル能」が催される。

ほころ会になると、その度々出来るものではありせん。年に一度か、せいせい二度、もちろん腹いっぱいのご馳走だけに食欲は大い

化という主旨から見て本当ではないかと思ふのです。第一、劇場の仮設舞台で本当の能が見えるでしょうか。能は仮面の芸術といわれ

もちろん現実の歴の厚さは十分承知しています。その上での理想論、熱田の森で夢でも見たか、

能融 後シテ 中沢修 植田隆之 狂言寝音曲 追加 佐藤卯三郎 田鍋惣一郎 藤田昭彦 井上松次郎 井上礼之助

# 拍子譜について

## 大槻秀夫

1 2 3 4 5 6 7 8  
「当ヤア」の「イ」が「ア」は。あーまは「ご」も「ま」にきて。なーづとも「き」ぬ「い」わおぞと

「聞くも妙なり」増節から生じたトリである。以下易しく説明を要しないと思ふ。止めの「白雲の袖ぞ妙なり」は、次が太鼓コイ合とある時は、この下句は次の一拍まで引いて太鼓の頭と共に声を切るのである。

右の句は七・五調である。これが平ノリならば本地二調に取るのであるが、大ノリの場合は二調に取るのである。即ち大ノリの場合はゴマ点が二分分になるのである。そして引きは三分分になるのであるから、引きはゴマ点の二倍にはならず一倍半になるのである。

「知盛が」謡本に據の線が引かれて、これが走りである。走りの多くは五文字又は四文字である。又時には三字の走りもあり、極稀に六字の走りもある。この「知盛が」は五字の走りであって、五字の走りといつても五字全部が走るのでなく、右の割付けの如く五文字の中の三文字だけが一字分の短かさになり、一字目と五字目の「と」と「が」は二分分の長さに取るのである。併して、

「沈みし」以下全部ゴマ点であるので割付けの如く六拍・七拍と全部当って語っているのである。(つづく)

「君が代は」これは増節が無ければ当然トリの句である。併し、ケセの上端の句には、この五文字に増節を付けて本地にして謡曲が深山ある。「さるにても」の句が多い。本地であるからこれを上句と下句に分ける。即ち「君」の二文字が上句で、その一字目に過しがあるので当ヤアで謡い出し、過しは大

平ノリの初歩の説明は、一応済んだので、これから大ノリに移る事にしよう。以前に説明した通りノリの種類には、平ノリ・大ノリ・中ノリの三種ある事、又それは各々どういふ性質のものであるかに就ては、本稿の始めの方で一寸説明した通りである。

平ノリは平ノリに較べると、まことに単純であって理解し易いものである。そして日頃の素謡の稽古の時も大ノリの部分には、拍子譜と殆ど同じ謡を謡っている。

能というものは観客が入るうが入れないでも能を演ずる人の心構えを適切に言った名文句である。しかし少しも他の芸術にはこれが見当たらない。そこに隠された能芸術の本当の姿(幽玄の世界)があるのだからと思われ。

重政の打った、もともとはすぐれた小面である。豊臣秀吉が竜右衛門作りの小面を三度愛蔵して、これに雪、月、花の銘を与えた。そして、自分の能楽の師であった金春芳通に雪の小面を与え、ともに能を舞ったことのある徳川家康に月を贈り、花の面は金剛太夫に贈った。

## 能面と女

H 生

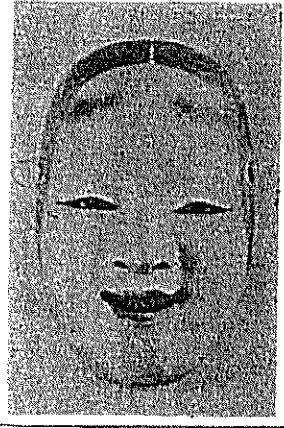
私がいつのころから、能に興味を持つようになったか知らないが能は退屈なものであり、特に三番目物(女物)は動きが少ないので私は常に五番目物(鬼物)が一番面白く見ていたのであるが、能楽の女紙が発行された頃に芸術院会員になられたばかりの梅若六郎師

と対談した時、素人のふしつけな質問もあったであろうに、よくお答え戴いた事に心から感謝している次第である。

その翌日は、梅若六郎師の「瓶女」(三番物)で、初めて能芸術の真すいはこれかと二階正面で見とれていた。その後中日新聞の能評家の西田三好氏が、「天下一品」と書かれていた記憶がある。

金剛殿先生の能と能面の一部を引用すると、明治維新の変動で幕府の扶持を離れた能楽師の没落は悲惨な極めたものである。金春座の本面であった「雪の小面」もこの荒波に漂って、大阪へ流れ出たのを父の謙三師がとりとめたのである。

雪の小面は強き面の上手赤鶴一鶴斎吉成と並び能面打ちの双壁である。柔かき面の上手石川竜右衛門



小面より人が見るので、能面(おもて)が見るのである。先代金剛殿先生の能と能面という本の冒頭にされる

能というものは観客が入るうが入れないでも能を演ずる人の心構えを適切に言った名文句である。しかし少しも他の芸術にはこれが見当たらない。そこに隠された能芸術の本当の姿(幽玄の世界)があるのだからと思われ。

重政の打った、もともとはすぐれた小面である。豊臣秀吉が竜右衛門作りの小面を三度愛蔵して、これに雪、月、花の銘を与えた。そして、自分の能楽の師であった金春芳通に雪の小面を与え、ともに能を舞ったことのある徳川家康に月を贈り、花の面は金剛太夫に贈った。

月には江戸城の炎上の時に鳥有に帰し、花は、前金剛宗家まで連綿として続き、いまは三井家の所蔵となっている。

追加半能 観世 喜之 高安 滋郎 井上礼之助 佐藤卯三郎 井上松次郎 山本敬一郎 鬼頭八郎 藤田六郎兵衛

花月 西村 欽也 福井啓次郎 寛 三男

山姥 水野あや子 吉田 妙 福井啓次郎 藤田 昭彦

天鼓 塚田 常子 山本敬一郎 藤田 昭彦

唐船 中村 つゆ 山本敬一郎 藤田 昭彦

千手 芝村 栄枝 吉田 定男 藤田 昭彦

海士 橋本 とも 吉田 定男 藤田 昭彦

富士太鼓 山村 昌子 寛 三男

祝 能楽の友創刊5周年

謡曲本専門販売 株式会社 東文堂書店

名古屋市中区栄3-28-16 (松坂屋1丁南) 電話 (052) 241-1059

喜多六太氏逝去 1月14日告別式執行 喜多流第十四世宗家、喜多六太氏は、一月十一日午前七時三十分老衰のため東京都目黒区の自宅で逝去された。九十六歳。告別式は十四日午後二時から喜多能楽堂で、能楽協会、喜多流合同葬でなされた。

故喜多六太氏は、明治七年七月七日、旧幕臣宇都野五郎の次男として生れ、六歳で喜多家を相続、明治二十八年六太を襲名した。

芸術院会員(昭和二十二年)文化勲章受章(昭和二十八年)重要無形文化財個人指定(昭和三十年)著書に「六平太雲談」がある。







# 行紀 女 瘦

文と絵 二井栄逸

春の淡雪が消えのこる野辺の枯草をカサ／＼と分けて見ると、もう、地面を這うようにして草の若芽が緑に息づいている。早春の朝風は残雪を含んでつめたいけれど、なんとなく春めいて心の底まで爽かになる。



「瘦女」のスケッチ

ど、なんとなく春めいて心の底まで爽かになる。昔、ふるさとの家が好ましく、泊りにいったが、隣の家で何やらトントンと拍子をとりにながら歌をうたっている声がするので祖母にきくと、あれは七草ばやしだよ、摘んだ若菜を包丁でたぎながら拍子をとって七草ばやしを歌うと若菜がおいしくなり、万病よけの七種湯が出来ると、と、教えられた、星が一つ一つ消えてゆく夜明の頃だったし、ねむい目をこすりこすり座敷の戸をそと明けて、隣をのぞいた少年の頃である。やわらかい土をふんで朝風にふかれているとそんなことまで思い出す。

## 狂言

やるまい会第12回公演

- 雁大名 野村万之介
- 棒 藤 茂山千五郎
- 仕舞 頼 政 泉 嘉夫
- 素囃子 男 舞 河村総一郎
- 通 園 野村又三郎
- 井上松次郎

五月二日(日)三時  
熱田神宮 能楽殿  
野村万之介  
井上松次郎  
藤 茂山千五郎  
泉 嘉夫  
河村総一郎  
野村又三郎

## 拍子謡について

大槻秀夫  
この大ノリの章が済めば中ノリの章に移る。これと対照的なのは中ノリであって、(あいがしら)になる前の「け」の字は常に四字分になり、最後の仮名「る」の字

の日に潮にして食へることは、古くから日本にある行事である。大根を「すししろ」、かぶらは「すずな」と昔の人はなんと、名をつけたものであろう。能に若菜をとりあつたものが数種あるが、求塚の前半も若菜つみである。

## 能会短信

◎大蔵狂言・なごや会(大蔵弥太郎)は、三月十四日(日)熱田能楽殿で名古屋で初めての狂言会を開催する。

右の如く大小鼓及び大小と太鼓の合頭(あいがしら)になる前の「け」の字は常に四字分になり、最後の仮名「る」の字

龍吟	四月四日(日)	熱田神宮 能楽殿
久田観正会大会(第一部)	四月十一日(日)午前九時	熱田神宮 能楽殿
三井寺	古瀬八千代	西郷たつ子
養老	加藤 京子	河村総一郎
屋島	伊藤 正子	河村総一郎
芦刈	湯浅喜美子	河村総一郎
玉萬	岡田 京子	河村総一郎
鞍馬天狗	今尾 正治	河村総一郎
俊寛	佐伯 将雄	河村総一郎
盛久	稲垣つね子	河村総一郎
藤戸	松井ちえの	河村総一郎
羽衣	堀尾たま子	河村総一郎
山姥	高雄 和江	河村総一郎
松姥	戸前 勝平	河村総一郎
小袖曾我	加藤 有里	河村総一郎
通小町	白木 健司	河村総一郎
船弁慶	玉木 孝男	河村総一郎
松風	山岡 冬味	河村総一郎
殺生石	後関 文雄	河村総一郎
土蜘蛛	福井 隆郎	河村総一郎
運命	今井 良直	河村総一郎
仕舞	山 名市親正会	河村総一郎
善知	早川八千代	河村総一郎
紅葉狩	伊藤 洋子	河村総一郎
阿漕	中野 揚夫	河村総一郎
安宅	大島 美子	河村総一郎
船弁慶	立廻 松井 省吾	河村総一郎
附祝言	星野 路子	河村総一郎
伊藤与子	伊藤 与子	河村総一郎

道成寺	上田 照也	高安 勝久
道成寺	高安 勝久	立石 澄雄
道成寺	立石 澄雄	佐藤 三郎
道成寺	佐藤 三郎	佐藤 秀雄
道成寺	佐藤 秀雄	井上松次郎
道成寺	井上松次郎	佐藤 友彦
道成寺	佐藤 友彦	井上松次郎
道成寺	井上松次郎	佐藤 友彦
道成寺	佐藤 友彦	井上松次郎
道成寺	井上松次郎	佐藤 友彦

此水会記念茶会  
此水会(高野瀬通)にて、きたる四月二十五日(日)高野瀬通氏喜寿祝賀記念茶会を開催する。会場は名古屋市東区白壁町・旅







古来日本は「女ならでは世の明けぬ」とか申しまして。近年はまたウーマンパワーとかウーマンリブとかいうようです。戦後間もなく、「強くなったのは陛下と女」と相場が決っていたようです。ウーマンパワーに至っては靴下どころではありません。鉄か鋼か原爆か。とまではいかなくてもミサイルぐらいの破壊力はありそうです。草木もなびくばかり威勢ならびなき家電業界を降参させ、佐藤首相に頭を下させるといふ一帯は、ウーマンパワーの恐ろしさを、まさまじと見せてくれました。

テレビを見てごらん下さい。毎朝NHKの「今日は奥さん」をはじめとして、各民放が競って放映する「○○シヨウ」とか称する婦人参加番組、これに出て来るご婦人の方のイサマシイこと、なかに戦前型、貞淑型の昔なつかしいものもいらっしやいます。そんなものは希少価値的存在で、大部分は正々堂々、カンカンガクガク、学のあるところをブラッソ管いっばいに発揮しておられます。全くウーマンパワーとか、ウーマンリブとか開いただけのおぞ気をふるっていたのでは、生きていけない世の中とは相成りました。

芸能界のウーマンパワーに至ってはさらにもの凄いです。歌謡界の女王美空ひばりはいうまでもなし。あとにつゞく歌い手さんのメンメン、男性歌手の御三家、橋幸夫、西郷輝彦、舟木一夫がやや色あせて来た今日では、女性陣の活躍があれよあれよと見送るほかないアイドルです。歌謡曲はミイチャンハアチャン向きなどといっておられませんが、大物では芝居の三大女優、水谷八重子、杉村春子、山田五十鈴、またある、舞踊の井上八千代、武原はん、吾妻徳穂、まだある、まだある、……だが、この辺りへ来ると、もうウーマンパワーなどという所さえおかしな感じがして、男の力もなかなかの好演でした。謡、型ともにかつちり男性陣にもヒナ

いや、なぜこんな心にもないヤブにらみのおしやべりになったのかと申しますと(これからが本論、遅かったナ)、二月二十一日に行われた名古屋梅園会、そのトップに熊沢恵美子さんの「巻絹」が出ました。それを見てはかすもウーマンパワーを思い出し、たという次第。いや、舞台ばかりじゃございませぬ。当日の見所を見ましても、はゞ満席の大部分は女性ばかり、もって中年以上が多いので豪華ケンナンとまでいかなかったのは残念、とはいっても、中にはなかなかの美人もいました。が、(これは冗談)。まだある。当日玄関でいただいた。というより勝手にいただいた来た各館のもの、番組を見て、演者ははとごとくといつてよいほど、女性また女性、なかに女性だけの会というのもあったようですが、これを見る男性の私としては「あ、

出たようです。力が抜け足どりが乱れました。はじめに緊張し過ぎてスタミナの配分を誤ったというところでしょうか。さほどの大曲でもありませんが、突込めば突込めばわけが分らなくなり、うな曲だけに、意余って、力足らざる結果になったのかも知れませぬ。良心的な勉強家に限って突当り易い壁だけに、一層の勉強を望むや切です。

元来私はフェミニストです。女子供といふ、女は子供同様、無能力者だという、ケイベツした意味で使われるようです。私も女、子供と並べていうのは差支えないと思いますが、それは両者とも無能力だからというのではなく、純粋だからです。今の世の中は汚れています。環境だけでなく、人の心も体も、社会全体が汚染されています。男は社会活動を天職としているだけに、少々の汚

も男性的な芸能です。新派、新劇とはもちろん、歌舞伎とも違いませぬ。歌舞伎の生命は女形にある。女形を女優に代えるわけにはいきません。それで歌舞伎にはいけません。戦後間もなく今はなき東京劇場で、守田勤弥と水谷八重子の「源氏物語」を見ましたが、さすがの名女優八重子でもお富はとうにもなりませんでした。その意味では歌舞伎は男性だけの芝居ですが、誰も歌舞伎を男性的とはいわない。男性が女を演じて、女以上の女らしさ、つまり色気を出すのが見どころという意味では、むしろ女性的とさえいえるのではないでしようか。それに反し能は文字通り徹底的に男性的です。その発声から考えましても、創生期の室町時代は禅宗が文化を支配した時代です。世阿弥の芸術観にも禅の影響が多分にあることご存知の通りです。禅は仏教の中でも最も男性的な宗派です。あゝきびしい禅の修行に耐える女性がいるでしょうか。同じ意味で能の修業に、真実耐え得る女性がいるかどうか。たとえ修業に耐え得たとしても、「電光影裡に春風を切る」式の禅機をひらめき、把握し得る女性がいるかどうか。

そんなむづかしいことになるといふのは男性専門家だつて、あぶなつかしいのは事実です。しかし本場の名人上手は、もちろんその数は屈指数えるほどのないにしても、その境地を目ざして日夜修業に勤んでいるはず。これに對して女性はどうか。一念のきびしさは認めませんが、目標は大分低いのではないでしようか。素人の奥さんなら趣味か内職、大人の先生なら男性の先生並みか大部分といった失礼でしようか。もし、この失礼(かも知れない)な推測が当たるといへども遠くないのであったならば、他部門の芸能界のような大きな期待を女性陣に寄せるとは無理なものでしょう。

現に能楽各流の家元、大家が、ご自分の娘さんを楽師に仕立てたという話を聞きませぬ。これはまことに不思議なことです。能楽の普及、興隆に最も関心をもち、

### 能楽界のウーマンパワー

前田満穂

ここにもウーマンパワーありと長嘆せすにはおられません。さてその舞台の方ですが、「巻絹」について「普刈」「融一の三本立て、とりどりに面白く、特別にお目当ての「普刈」は梅若猶義の草香左右衛門丞は心技ともに充実して一分のスキもない名演、表情や過剰といたたい人があるかも知れませんが、あればあれで立派な猶義の「普刈」としての完成度を認めたと思います。(なにしる男前だから)などと、ひやかし半分、そねみ半分の駄弁はつしんでいただきます。男前も三のうちです。ホント。さて、また出てきました。ウーマンパワーの「巻絹」のシテなかなかの好演でした。謡、型ともにかつちり男性陣にもヒナ

染には負けない抵抗力と免疫性を備えています。女、子供は純粋なだけに、汚染に冒され易いのです。それだけに汚染に敏感です。ウーマンパワーはその現れです。ウーマンパワーは、強くなれ！です。もっともっと強くなれ！です。消費者運動も、住民運動も女が強いと成功しません。かあちゃんかどうちゃんを足さひびるようではダメです。男は弱いですが。女は……

ところで能の世界では、まだまだウーマンパワーが不十分です。前に芸界一流とこのウーマンパワーの名を並べましたが、能楽人はいまやウーマンパワーが育ちかけたところですか。これからでしょう。女性の名人上手が生れるのは楽しみです。といつて、歌舞伎のよりのわけは……

能楽の普及、興隆に最も関心をもち、ご自分の娘さんを楽師に仕立てたという話を聞きませぬ。これはまことに不思議なことです。能楽の普及、興隆に最も関心をもち、

### \*私の健康法にながる\*

柴田初太郎

前述のように深呼吸は血液の浄化と循環を強力に推進するので、続けて実行すると多くの病気が治つてしまふ。深呼吸によってガンは防げるし、すでにガンで悩んでいる人も、これによって平常細胞のバイタリティが強くなり、反対にガン細胞の力が弱められるので治りがよくなる(治療例多し)。だからガンに悩まされる人はその意志と努力によっていくらかでも光明の道は開けるものである。それはかなり深呼吸によって血管の脆弱化を防げるので、血管強化によって脳卒中や心臓病(特に狭心症や心筋梗塞)をも予防する力を持つてゐる。語によって実行して下さい。また薬品の多くは効く反対に副作用を持つてゐる。つまり私共の生体にとって薬はプラスの面とマイナスの面がある。ところが深呼吸にはマイナスの面が少しもない。全部プラスに働いてくれる。こんな結構づくめの呼吸法が誰にも出来る筈であるのに多くの人はそれをやるやうともしない。つまり浅い呼吸によって自分の命を縮めている人が大半である。

ラジオやテレビ体障には深呼吸が組み込まれているが、時間にしたら五分間もしないであらう。一日二十四時間のうち僅か三分や五分の間に……

鳥料理 本場名代 鳥屋 登録商標 電話三二一七二〇 一五二四号

名物 亀末廣 中区錦3丁目14-5 962-3831(代)

小料理と樽酒 安田屋 名古屋・東新町東北側 電話(971)0916・0158番

名物 餅よめ 名古屋新世

友社 吹上本町2-20 号464 1) 7984 古歴 36393 1年 400円 1年 500円 35円

# 能・狂言の海外公演

アメリカ、カナダ各地で

主催 名古屋新世 後援 中古屋観世





# 能 紀 行

## 景 清

文と絵 二井 栄 逸



昔に備る己が名の 悪心はおこさじと 思へども 又 腹立ちや…… 喜多 実

紀南地方には春が急進におとづれる。昨日の研究會に志摩から参加した門下のY女史は、もう、むこうではモクレンが真盛りですよと、にこやかにいう。そしてビチビチした魚をくれた。それは、口の大きい赤い魚であった。私は、春の海はのどかである。私は、子供の頃から海を見るのが好きでたまらなかつた。海だけでなくそれに関連して川、湖水、池等も好きである。だから私の理想は、池の上にはり出た画室のある家に住みたいな、ということであるが、そんなことはかなえられそうにもない。

紀南の海、たしか大島といった燈台のある無人島に渡ったことがあった。そこは、はまゆうの群生した島で、太平洋の荒波をうける為か、浜辺の砂も玉じりやを敷いたように粒が大きく、美しかった。白日にきらめきながら波はくりかえし、くりかえし同じ姿で砂浜におしよせては海と陸との語らいつを繰り返していた。それは、はるば

と夕潮が満ちてきたのである。じつとさく景清にはその潮騒が平家をのんだ西の海にきこえるのであつた。そして、主上を始め、一門の人々をのんだ西の海、きらめく夕波、潮風にはためく平家の赤旗等の追想や、反逆、あきらめ、哀愁の想いが、たそがれのわら屋の柱によりすがつた景清の胸の内をわたたくしく去来するのであつた。

この絶海の孤島に閉居する景清には、心ない島民の嘲笑をうけながら、しかもその島民達の情にすがつても、いつの日には、怨敵源氏を打たねおかない剛直な精神が宿っているし、源家の繁栄してゆく有様を見るのめげがらわしと、自らの両眼をきり取ってしまった景清にこそ私は自我を越えた偉大さをふつ／＼感じるのではあ

のないものと、眉、鬚、髭、に三段の植毛があるのと二つの種類がある。植毛のない方は、眼珠が系ぐり取られて全くの盲目になつているが、植毛のある方は、眼珠があつて眼を閉じた感じである。絶海の孤島に閉居する景清。景清のまことの心算からいへば閉居といった方がいゝのではないだろうか。正迫がきびしければきびしい程、自分を強く生かしてゆくこととする景清の人間性の中には、誰にも屈伏しない意志の強さが内在している。敗戦の武將でありながら、あらゆる苦痛を押しつぶしてゆくゆうと孤島に閉居する景清だと、私は思い、その気持ちで絵をか

すぐれた演者が、それぞれの持場に最高の演技を見せた場合、能は永遠に生きるものである。その感動は見る人の心の底にやきついてしまう。すべての無駄をかなぐり捨て、ギリギリの線でふみとゞまることが能なのである。

景清に使用される面には、植毛場面に最高の演技を見せた場合、能は永遠に生きるものである。その感動は見る人の心の底にやきついてしまう。すべての無駄をかなぐり捨て、ギリギリの線でふみとゞまることが能なのである。

眼珠のない景清の面と眼を閉じた景清の面とは表現上からは、前者がほんとうであるが、演ずる方から言えばどちらでもよいと思ふ。能が写真を通りこした象徴芸術である以上、大きな眼珠を持つた人が能で舞えば景清はやはり盲目になるのであるから。



「景清」のスケッチ

文化財保護審議会(田中義男会長)は、三月二十六日、「能楽子方笛」の藤田大五郎氏ら四人を個人人間国宝に指定することを決め、坂田文部大臣に答申した。能楽関係人間国宝に指定された藤田大五郎氏は、一噌流の名手、東京芸大講師、四十六年芸術祭大賞を受賞している。五十五才。芸術選奨の新人賞。

文化財保護審議会(田中義男会長)は、三月二十六日、「能楽子方笛」の藤田大五郎氏ら四人を個人人間国宝に指定することを決め、坂田文部大臣に答申した。能楽関係人間国宝に指定された藤田大五郎氏は、一噌流の名手、東京芸大講師、四十六年芸術祭大賞を受賞している。五十五才。芸術選奨の新人賞。

文化財保護審議会(田中義男会長)は、三月二十六日、「能楽子方笛」の藤田大五郎氏ら四人を個人人間国宝に指定することを決め、坂田文部大臣に答申した。能楽関係人間国宝に指定された藤田大五郎氏は、一噌流の名手、東京芸大講師、四十六年芸術祭大賞を受賞している。五十五才。芸術選奨の新人賞。

# 拍子謡について

拍子謡について

拍子謡について

拍子謡について

### 清韻会 能 組

四月二十五日(日)十一時始

翁	水藤 元三	千才 岡田光敏	舞 藤 子	田鍋惣一郎	田鍋惣一郎	藤田六郎兵衛
繪	馬 杉村 幸三	近藤 幸江	草紙洗小町	増田 甲子生	増田 甲子生	三男 八郎
郡	河村 嘉大	立石 遊雄	萩大名	野村又三郎	井上礼之助	佐藤 友彦
萩大名	野村又三郎	井上礼之助	老 松	河村 鉦二	塚本 秀雄	加藤 太三郎
班 女	久田 秀雄	春日龍神	河村真之助	大槻 秀夫	西村 欽也	田鍋惣一郎
萬	西村 欽也	法楽之舞	井上松次郎	殺生石	西村 欽也	吉田 定男
殺生石	西村 欽也	白頭	佐藤 卯三郎	附 祝言	佐藤 卯三郎	鬼頭 喜太郎

### 信 誼 會

五月二日(日)十時始

素謡	俊成忠度	中村 利機	龜井 良通	狂言	口真似	徳田 文三	井上礼之助
狂言	口真似	徳田 文三	井上礼之助	狂言	口真似	徳田 文三	井上礼之助

### 拍子謡について

拍子謡について

2488-9 200 359 113





私の勤めておられます朝日文化センターに、昨年十月から「嚙子」講座が設けられました。講師は田嶋一郎(小鼓)、寛三男(笛)の両先生で、それぞれ二、三十人の生徒さんが熱心に稽古に励んでおられます。

修業期間は六月までで、この三月で第一期を終了、四月から第二期がはじまっています。開講前の予想では、あまり沢山の受講者は期待できないのではないかと、思っていました。ところが、開講してみると、どうしてでしょうか、三十名の定員をオーバーするほどの盛況で、両先生とも驚いていました。

殊に生徒さん方の熱心さと勉強心は頭が下がるばかりで、それだけにまた進歩も早く、これまたオドロキでした。

最近、能、謡曲への関心は著しくたかまって来たように、この「嚙子」教室の盛況も、そのあらわれのひとつと見ていいでしょう。

謡子、仕舞はともかく、嚙子というちよつとつきにくい部門にまで、全然の素人の方が興味をもつようになったという事は、能楽への関心が、地について来た証拠といえるのではないのでしょうか。

嚙子を知らなければ、本当の謡は謡えない、本当の舞は舞えない、とは、かねがね云われていることですが、事実その通りには進んでいないので、実際はそこまで手をつた、いままでには確かに少なかったです。お師匠さんは、そこがつけ目で安心しておられたかも知れませんが、お素人衆が鼓だ、笛だ、拍子だ、とい、出すご時勢と相成つては、うっかりしてはおられません。

と申しました。いままでの先生方の教授法、一対一の口移し授業(謡の場合)を時代遅れというものはありません。なるほど、あの教え方は甚だ素朴で原始的で、時代遅れという感がないでもありません。しかし私は必ずしもそうは思いません。

西歐的な芸能の訓練法を見ますと、基礎から中級、上級と、それぞれの方向で進められ、

す。しかも修業のパートをいくつかに分け(分解)各要素ごとにみっちり仕込み、出来上った要素を組み合わせて完成品にする(総合)という、いかにも科学的、論理的な系統的な教授法、訓練システムです。システム、たしかにこれはシステムです。これに較べると我が芸能は、能だけでありませぬがすべて体験主義です。分析、総合という、論理的な主義ではありません。よく「身体で覚える」といふので、西歐的訓練法は、「頭で覚える」やり方といえましようか。

このごろの素人衆は頭がすんでいますから、西洋流の頭で覚えるやり方の方がわかり易いといひます。

不親切でつめたいかも知れない。しかし、本当に師と仰ぐにはほどちがいの心構えにもよるでしょうが、私はやはり芸のできる先生の方をとりたひ。

芸ができて、しかも芸の好きさ、まじしさを教えてくれる先生、これが本当の師匠だと思ひます。芸は人なり、芸のできている人は、人間もできているはずで、そんな先生についてこそ、芸の学び甲斐があるといふものではないか。

もちろん宴金の余興やひまつぶし、日本芸能の研究などというよこしまな目的から謡や舞を習うなら、指導上手な先生を選ぶに越したことはありません。半月か一年ついで、あとはテープでも練習すれば、大体の要領はわかりま

このごろの人は頭が進んでいますからのみ込みは早い、たゞしこの程度で上達しようとか、うまいとほめられようとか、そんな高望みはしないことです。器用で小さいにまよっていても、頭で仕込んだ芸には追いつきません。人の胸を打つなどといふものも、年季、年季、やっばり十年、二十年、半生から一生をかけた本當の芸にはなりませぬ。日本の芸能の修業は体験主義ですから、体験を重ね重ねて落着く先もわからぬほど鍛え込んで、はじめて光の

「なんと悠長な」といふなかれ。西歐の合理主義修業として、落着く先は一緒です。合理主義のワク内に止ってはいは本當の芸は発揮できない。名人、巨匠といわれ

ます。理クツをいいます。説明を求めます。適切な回答が返って来ないと先生をバカにします。バカにされては面白くないので、先生も理論的な研究をします。それは結構なことですが、もういったガクのある先生が、必ずしも良い先生とは限らない。理クツも知らな

### 先生と生徒

前田満穂

「なんと悠長な」といふなかれ。西歐の合理主義修業として、落着く先は一緒です。合理主義のワク内に止ってはいは本當の芸は発揮できない。名人、巨匠といわれ

以上両博士の御説を信じまして如何に腹式呼吸に依つて健康を増すことが可能であるかということ

今度の教育では頭の良い人は出来までも、形式のみで実質に乏しい様

余談でありませぬが、戦前私の生家名古屋の七間町の宅へ安来生れの御弟子が来られまして、気合の

名古屋豊星会創立四十周年記念大会

四月二十九日、上田能楽堂で開催、能百万(シテ佐伯栄造)盛久(シテ吉井順一)能野(シテ藤井徳三)善知鳥(シテ橋本正)

神戸観世会

柴田初太郎

現在では横膈膜の上下動がここ

余談でありませぬが、戦前私の生家名古屋の七間町の宅へ安来生れの御弟子が来られまして、気合の

名古屋豊星会創立四十周年記念大会

四月二十九日、上田能楽堂で開催、能百万(シテ佐伯栄造)盛久(シテ吉井順一)能野(シテ藤井徳三)善知鳥(シテ橋本正)

神戸観世会

神歌

カーネギー ホールで上演

二月三日羽田を発った板間金太郎

観瀨会社中会

能界短信

京都

神歌

神歌

アメリカ・カナダ訪問能狂言団

シカゴで七千人、その他三千人

観瀨会社中会

能界短信

京都

神歌

神歌

アメリカ・カナダ訪問能狂言団

シカゴで七千人、その他三千人

観瀨会社中会

能界短信

京都

神歌

神歌

柔道着製造販売 株式会社白虎堂 名古屋市西区笠取町 電話(522)6161番







# 能紀行

## 曲見

文と絵 二井栄逸

卯月半ばになると、爽やかな風に  
乗って鯉のぼりがふくらんだり、  
へこんだりして大空を泳ぎ始め  
る。久々に山にゆきたくなり、門  
下のKさんの車にのせて貰って、  
荒流不動の深山にゆく。

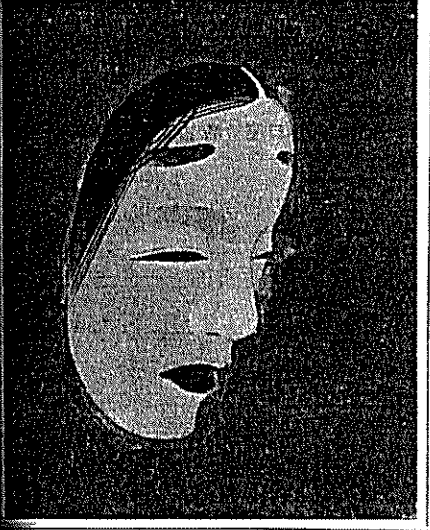
この頃の道路は山裾までなめら  
かな舗装がゆきとどいて、じゅう  
たんの土をすべるように気持ち  
よい。道の両側には、母子草、す  
みれ、たんぽぽ、草のみどり等が  
昨夜の雨に洗われてひととき美し  
く映えている。荒流の山は金山つ  
つじといつて、位つじの名所  
で盛りになった見事だろーと思  
った。山の桜は名残の花をよめ  
楓は芽吹き、つじはちらちらと  
深紅の花びらをのぞかせたつぼみ  
をばいにつけ、又、中には強烈  
な鮮紅色に燃えて、私達を迎えて  
くれる。樹間に腰をすえていると  
山風が絶えず吹いてきて、頭のし  
んまでびみきってしまう程雨上り  
の初夏の山は気持ちがいい。

はつ夏のすがすがしい季節感の  
出た能に、雲雀山がある。狂女物  
に扱われているが、このシテは狂  
女でなく、中将姫を守りつゝ、里に  
出では花を売る中年の女性とい  
点から、一種の遊狂の風格をそな  
えているので、カケリ、中の舞が  
組みこまれ、四番目能になってい  
る。中人前の静かな第一の場面か  
ら、藤原豊成の遊獵の中に花を売  
りに出るにぎやかな第二の場面、  
そしてさらにはなやかな第三の場  
面へと、場面展開は動く絵巻物を  
見るようである。

花を売るのも主君の為と、花た  
ちばな、卯の花、杜若、百合、深  
見草(ぼたん)、目ざまし草、款  
冬(やまぶき)、躑躅(つじ)  
等、いろいろの花の名をあげて花  
を召しませ、と、初夏の山野に舞  
い踊りたりはいかにもすがすが  
しい。

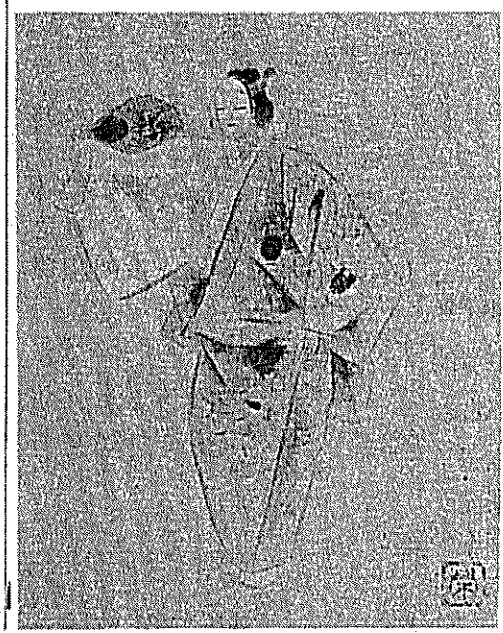
款冬(かんどう)といえは、冬  
に咲くような花の名であるのに春  
に咲くとはあやまりならずや、と  
いったり、躑躅(つじ)の  
紅い花をとりしびと間違え夜遊の  
人達が折り取る等、古詩歌よりひ  
きたし面白く花をたゝえる段もま  
ことに優雅である。

この雲雀山のシテには曲見(し  
やくみ)という能面をかける。曲  
見は中年の女の面で、年齢的に言  
えば四十才前後である。おむね  
母親の役に用いられ、その中では  
多くは狂女物に用いられている。  
小面、増、若女等と違って、母  
性的な愛情を秘め、或は子を失  
い求め狂母のなげき等をたゞよわ



### 拍子謡について

大槻秀



えす内からわきあがる、より秀れ  
た力をもっていて、それが常に今  
の力を先へく追越してゆく。  
又、かくてこそ巨匠たる存在理由  
もあるのだが、その力が自分自身  
で判らぬ以上、それを伝授するこ  
この出来るわけが無い。――  
これは何かの本で読んだフラン  
スの画家、マチスの言葉である。マ  
チス自身、独特の強烈な色彩感覚  
をもつて、何の迷もなくつぎつ  
ぎと傑作を世に発表していった。  
それは、やむにやまれぬ感情のほ  
とばしりが色彩となつて彼自身の  
真実性を表現してきたのであろう。  
静かな山の中で、このような強烈  
なつじの色を見ているとそんな  
気がしてくる。能にしても、音楽  
にしても、文学にしても、その人  
の人間性があふれ出てこそ、始め  
て芸術という名がつくのではな  
らうか。

政府は、四月二十九日、春の叙  
勲を発表したが、能楽関係として  
日本能楽会会長、宝生九郎氏が栄  
ある勲三等瑞宝章を受章された。  
氏は、明治三十三年七月二日生  
まれ、宝生流十七世宗家、芸術院  
会員であり、斯界の隆昌に貢献さ  
れている。

「あつたまつり」にはとくに巻  
わら船が名古屋の夏の夜まつりと  
して賑わいを呈するが、能の奉納  
に加え、花火、演芸、文芸、弓道  
など、熱田神宮能楽殿で行なわ  
れる。

### 宝生九郎氏が受章

春の叙勲 勲三等瑞宝章

附祝言  
田鍋惣太郎米寿記念会(三日目)  
昭和四十六年六月六日(日)正午始  
於 熱田神宮 能楽殿

附祝言  
東方朔 山本 順一  
河村 良一  
尾関 健太郎  
高野 潮  
大江 又三郎  
山本 其義

附祝言  
三井寺 橋岡 久共  
大槻 秀夫

### 田鍋惣太郎米寿記念会(二日目)

昭和四十六年五月三十日(日)正午始 熱田神宮 能楽殿

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

一調 笠之段 桜間金太郎 幸 義太郎  
小袖曾我 橋岡 久春 清水 鏡一 鬼頭 季信  
金 岡 三宅藤九郎 和泉 保之 林 甲子生  
一調 花 笹 福岡 周斎 重朗 柴田 初太郎  
道成寺 福王 信光 山本 敬一郎 藤田 六郎兵衛  
後見 殿島 修二 地謡 水藤 元三 羽瀬 清  
後見 橋岡 久馬 地謡 杉村 竹翠 井田 文夫  
鐘後見 大西 智久 今村 嘉伸 小西 弘通

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

### 別習一調歌 占キリ

野口 禄久 幸 正義

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

舞臺子 (喜) 翁 喜多 実 喜多 長世 田鍋惣一郎 藤田六郎兵衛  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世  
高 砂 桜間金太郎 河村総一郎 田鍋洋一 地謡 松井 昭世

2500円  
90円  
七・唐船・鶴・鉢木

# 観能の手びき

## 五月の能 熱田神宮能楽殿

五月三十日、田鍋惣太郎翁  
米寿記念会第二日能  
驚(さき)

この曲は、驚(さき)みだれという特殊の舞が舞われ、重習、別伝の大曲能になっている。鳥を無心のシテとして扱ってあるのが元服前の少年か還暦過ぎの老人にのみ舞われたものであったが、近年では壮年層にも稀れに舞われるようになった。白一色の優雅な装束で舞う驚の美しさは、赤一色の「暈々」の乱と対照的で真に驚そのものと云えよう。

道成寺 (とおじよおじ)

シテ 大西 信久

狂言の後見方が、作物の釣鐘を慎重に舞台に吊る。始めから爽に

違例の所作である。ワキ道成寺の住僧、ワキツン従僧と共に登場、名ノリに鐘の供養のことを述べ、能力を呼んで、供養の庭に女人禁制の旨をかたく命ずる。

次節の舞子で、前シテ白拍子が出、舞台に入り、次第、サシ、道行、着セリフがあつて、能力との間に問答があり、物着になる。物着の間大鼓は一調でアシラウ。鳥帽子を着けたシテは、橋懸り一ノ松辺に出、舞台の鐘を見込み大鼓のツツケヨメの手で舞台に入り、ここで眼目の乱拍子になる。乱拍子は舞台を舞子型に廻り、小鼓の一調で笛がアシライ緊迫した場面が展開され、この曲独自の所作をする。中ノ段を過ぎてワカを詠い込み、踏み終って極度の静かから動に移る急の舞になる。舞い上げて、鳥帽子を打ち落とし、勢い込

んで鐘の下に駆け寄り、両手を鐘の縁にかけて拍子を踏み一気に飛び上ると、間髪を容れず、後見は綱を放つと鐘は地響きを立て、落ちる。狂言柱にいた能力二人は、この音に舞台へ駆け込み、驚き騒ぐ所作があり、やがてワキにこの由を告げる。ワキはワキツンと共に鐘樓に赴く態にて鐘に向い、鐘の故事と女人禁制の謂われを、語り鐘に向って折る。

鐘の中のシテは自身で物着をし蛇体になり、地謡「撞かねどこの鐘響き出で」で鐘の中にて鐘鉢を打ち鳴らし「程なく鐘樓に引き上げたり」で鐘が引上げられると、後シテは、そこに坐った姿を現わし、打杖を手にして立ち、唐織を腰に巻いて、烈しいイノリの所作になる。イノリには隣落シ、柱捲

等の秘事がある。

この曲の眼目は、乱拍子や急ノ舞にあり、シテを始め各役々にも秘事、口伝のある大曲中の大曲とされ、ワキの語(かたり)も、「藤戸」(隅田川)「鉢木」「七騎落」「扱待」と共に難かしいものときれている。

舞子の方も亦然り、特に小鼓は重大な役割を背負われた大曲で容易ならぬものである。

今度特に八十八翁の田鍋惣太郎翁が、記念能に、まだ「道成寺」くらい打つと一大奮起して動められることになったもので、恐らく翁以外にこの大壮筆を放せて成し得たものは他になからうと思われるのである。

この意気度百々歳までも打ち続けられんことを望むや切である。

御会費 二、二〇〇円  
指席 一、八〇〇円  
自由席 一、八〇〇円

主催 竹 韻 会  
大 杉 村 竹 翠 夫

援助 大 槻 秀 夫

電話七七一五〇三九番

ノリの三種類ある内、平ノリ、大ノリの大体の説明が済んだので、この章は中ノリの説明をする。

中ノリは、別名半ノリ又は修羅ノリとも云う。

ゴマ点を大ノリの半分の寸法に謡うので半ノリと云い、又修羅物のキリは殆ど中ノリなので、修羅ノリとも云う。

平ノリの本地(八箇拍子)は十二文字を本格とするが、中ノリの本地は十六文字を本格とする。即ち一箇拍子に二文字づゝ、誦い込むのである。上句八文字、下句八文字である。そこから文字が一字減れば、そこに息継ぎが出来たり、生ミ字が出来たり、或いは遅しや引きなどの増節が出来たりするのである。そして総て拍子に当て、のった誦い方をするのが中ノリである。

大ノリにしても中ノリにしても、平ノリの様な複雑さはないので、早速に例を引いて割付けて、説明して行くことにする。

例一海士(玉之段後半)

1 2 3 4 5 6 7 8

一 一 一 一 一 一 一 一

(ヤ)兩無や志度等のかんのんざつたのちからを合はせて賜ひたまへとて

この八八調の誦い出しは当るヤの間で誦い出すのである。大ノリ物の暢びりした気分とは対照的に、中ノリ物は強い語り

「力」を合はせて「大悲の利剣の」持ちたる剣を「剣を捨てよぞ」「あたり」に近づく」等、四字四字の口調の八字の上句は当ヤの間に誦出し、「逃げんとすれば」は七字の上句だが、四字三字の口調なので当ヤの間で誦出す。

この一章には半声の間で誦出す句が沢山あるが、この内「龍宮の中に」「約束の口調であるが、この三字の内一字に増節が付いているので四字の口調となるので、上句九字の誦い方と同様である。「その隙に。宝珠を」「乳の下をかき切り」「龍宮の習いに」この三句は上句

次に下句については、平ノリの場合には上句七文字で下句五文字であるが、その性質を異にしていたが、中ノリの場合は上句と下句は同じ性質を持つてるのである。即ち上下十六文字の八八調である。下句八文字又七字の時同上句と同様であるが、六文字の時と同じ(第五拍)から誦出す場合が多い。

平ノリに多くある如く五文字の下句で、増節の付いていない句も長く出て来るが、これには二通りの誦い方がある。この章では「とび入れれば」「動かせば」は、いずれも右の割付け通りであるが、曲目に依つては「うごかせば」とヨセずに、生ミ字を付ける誦い方もある。

終りの二句、「珠は知らず海士人は」からは中ノリではなく平ノリになってくるのである。

一章が悉く中ノリと云う章はまずないので、始めは平ノリで三三句してから中ノリになったり、時には中ノリと中ノリの間に平ノリが含まれる事もたまにあらるのである。(つづく)

### 大槻秀夫

1 2 3 4 5 6 7 8

一 一 一 一 一 一 一 一

だい悲の利けんをひたいに当てりうぐうのなアかに一飛び入れば

左右へばつとぞ遅いたりけるそのひまに。ほお珠をぬすむ取つて逃げんとすれば。守護じん追つかかかてたくみしことおなれば

もちたるつぎを取りなほし。ちのしたをかき切りたまアを押し込めつるを捨ててぞ伏したりけるりうぐうのならいに死にんの思めば

ひとびとよるこび引き上げたりけりたまは知らずあまびとはか

いしうに一浮かみいでたりい

上句八文字、下句八文字で、一句が十六文字が本格的なものであると述べたが、そう云う句は沢山あるわけではなく、右の割付の中でも「人々喜び引上げたりけり」の一句だけが十六文字である。併し、この八八調の十六文字を基準にして計算する事が最も理解し易いのである。

「あつたまつり」にはとくに巻わら船が名古屋の夏の夜まつりとして賑わいを呈するが、能の奉納に「あつたまつり」は、文楽、忍道、舞臺子、東方朔、山本勝一、河村総一郎、福井良久、野崎希世、尾関健太郎、高野瀬透、田久田秀雄、山本真澄、山本真澄

七月十日(土)午後三時三十分始

熱田神宮能楽殿

三井寺 橋岡久共

熱田神宮能楽殿

宗家 宝生九郎著 全八巻

宝生流囃子仕舞全集 価 2500円 90円

第五巻まで発売中

第五巻収載曲目 (つゝは)

土車・経政・鶴亀・天鼓・藤栄・東岸居士・唐船・東北・融・木賊・巴・鳥追・難波・錦木・鶴・野宮・野守・羽女・半語・橋井慶・芭蕉・鉢木・花笠・班女

東京都千代田区神田神保町3-1-1 わんや書店 東京都中央区銀座6-1-1 電話 (571) 65

鳥料理 本場名代

登録商標

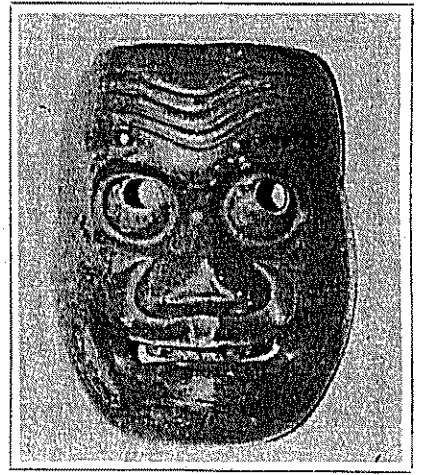
鳥

東千代田区中區三丁目 一番二四号

電話三三二一(一七二〇) 一〇一五五



# 狂言面のこと



## 見徳(げんとく)

どんぐり眼で天井をにらみ、口は波拍をかみしめている異様な面をして表現する喜劇的で流用が多い。

「四動方角」(しどうほうかく)「蟹山伏」(かにやまぶし)「横座」(よこざ)「見流流馬」(みりゅうりま)「ちこやぶさめ」(ちこやぶさめ)「茸」(くさびら)「四動方角」の狂言に出る馬の面として流通するが、特に馬面として用いられるからその時に解説しよう。

蟹山伏 (この狂言に出る蟹の精) 出羽の国羽黒山の山伏が大塚葛城へ分け入り、難行捨身の行法を修め、国元へ帰ろうと強力を同道し山道を下る時、俄に空が真暗になり山が鳴動するかと思ふと奇怪な怪物が現われた。山伏は驚き、気味悪げに何者かと尋ねたれば、怪物は云う「二眼天に有り、一甲地につかず、大足二足、小足八足、

## 観能雑感

N 生

四月二十五日に催された清韻会能組には、選曲と演技とに庶民的で、のびやかな雰囲気があった。開演時間に間に合わなかったので、狂言「萩大名」から観た。

四月二十五日に催された清韻会能組には、選曲と演技とに庶民的で、のびやかな雰囲気があった。開演時間に間に合わなかったので、狂言「萩大名」から観た。

登場させられたシテ(野村又三郎)の精一杯の構えと、狼狽振りが、テーマよりもかえって滑稽であり、この日のシテの演技はそれを表現していた。

そうした当時の庶民的な雰囲気にも包まれた会場で、続いて演じられた能「百萬」、そこにも母と子の別れといった筋書よりも、狂女の世界、あるいは春に夢遊する世界ののびやかに演じられていた。

シテ(殿島修二師)の意志的で力かな品位が現われ、子の肩に手をかけて「夢か現か幻か」と巻る場面は、鮮やかに印象づけられた。

最後の能「殺生石」(白頭)では、前の兩者とは趣きの違った、シテ(殿島修二師)の意志的で力かな品位が現われ、子の肩に手をかけて「夢か現か幻か」と巻る場面は、鮮やかに印象づけられた。

地謡との意気もよく合い、何かと「道成寺」の曲が、何となく

とある有徳な人が家奴に何とも知れぬ事が生じた。主は気味悪く取って捨つるに、夜の内に生えるので度取つても元の如くに生えるので不思議に思い、法力の強い山伏を呼び加持祈禱を行く程種々奇態な事が生え終に見るからに恐ろしい鬼群が現われ祈る山伏を道連れに奪に入る。これ等各種の茸に見合せて着せ用うる面であります。

健康法は深呼吸の腹式呼吸法の大切なことは間違いない。そして、このほかに尚大切なことは、毎日召し上げる食事です。

柴田初太郎 発声法 柴田初太郎 柴田初太郎

この年になりまして、このように心が感じます。健康は自分の力で作るのです。

近頃は健康保険と申す制度のため、一寸風邪をひかしても医師にかかり、それ注射、それ薬と、薬を信頼する傾向があり過ぎます。

## 能一筋に八十年 名古屋タイムズ紙が紹介 米寿の田鍋惣太郎師

名古屋の能楽界の最長老、田鍋惣太郎師はことし米寿を迎え、この記念能会を五日開催するが、能一筋に八十年と題して、さる四月十五日付、名古屋タイムズ紙は「芸」欄に同氏のインタビューを掲載した。(写真)

## 能「天鼓」 抽水会

能「天鼓」はさる五月九日、熱田神宮能楽殿で抽水会大会を開催。能「天鼓」(前シテ万屋三郎氏、後シテ深見直澄氏)素謡、舞踊子、仕舞、独吟など三十数番で盛会であった。

## 能楽の友創刊5周年 記念特集号!!

本紙では既に五周年を迎え、本月号を以て五十三号となった。七月十八日には多彩な記念能を催すことになり、なお七月号を以て記念特集号として目覚ましい編

## 5月放送予定 NHK第2毎週 日曜午前8時~9時

16日(日)	宝生流	「放下」	近藤乾三ほか
	観世流	「巻綱」	観世鉄之丞ほか
23日(日)	金剛流	「草子洗」	金剛 巖ほか
30日(日)	観世流	「籠太鼓」	岡 久雄ほか
		「木曾」(願書)	橋岡久春ほか
テレビ	25日(火)	総合TV	午後1:40~2:40
		「芸能百選」再放送	「土蜘蛛」 観世元昭
			梅若景英・宝生 閑ほか

の友社 次上本町2-20 464) 7984 屋 36393 1年 400円 2年 500円 3年 35円

# 相つぐ記念能

## 道成寺

## 鷓鴣小町

## など

四月十八日(日)午前十一時始 熱田神宮能楽殿

林 甲子生

# 味のれん

名古屋市中区栄一丁目11の5 (御園座正 面 玄関前) 電話 (3) 1 0 0 3 番

## 欧風料理 とんかつ 亭

名古屋市千種区大久手町4-11 TEL 731-3680











# 狂言面のこと

## 見徳

(5月号よりつづく)

横座 (狂言横座に出る牛) あら男の愚態へ良い牛が何処からかまい込んで来たので、男はこのよな嬉しい事はない、幸い隣りに在所に牛の目利(めきき)があるか

この遠国の領地問題は、後白河法皇にとっても、清盛にとっても、自分の運命を制する大問題であり、畠山重忠としても死活の問題であったから、この三者が、一つの利権をめぐって激しくぶつかり合っているのは、当然のことであらう。

ところが、ここに、この三者の鼎立にことよせて一挙に平氏打倒にもちこもうとする別な勢力が頭をもたげていた。

それは、伝統的な下級貴族であり、策謀好きの僧侶たちで、いわゆる院の近臣たちであった。

この近臣たちが畠山重忠の領地という名目のもとに、法勝寺の僧俊寛に働きかけ、成親、康頼、西光をくどき、藤原成経、山城守基兼、近江中將康正らを抱きこんで、摂津源氏の多田藏人源行綱や北面の武士にまで謀議に加担するようさそいをかけた。これが、世にいう「鹿谷事件」であり、謡曲「俊寛(鬼界島)」に発展する「平家物語」中の悲劇のはじめなのである。

もう数日日照が続いて、その日は大層な水をはるかに照らすので、

ら見てもおもうと牛をひいていく途中で知り人に逢った。それが牛主であることは知らなかった。どれへ行くかと問われたので、今あなたの家へ行き、牛の目利がして貰いたいと思つての事じゃと云う。牛主の言うには「此中秘蔵の牛が逃げた方が知れぬから、占方を頼み算を置いて貰つたらば東方に居るとの事で今尋ねようとして出た事じゃ、今そなたの曳いている牛は某の牛じゃ、何時何処でどうして手に入つた」と尋ねると男は此中ある人から買つたものじゃと言ふ。その証拠をめぐつて口論になる。

牛主の云うには、家で生れた鹿な可愛い牛であるからそのまま抱きあげ塩灰をうち、かわらけ等こころであつた。

京都東山、如意ヶ岳の麓にある鹿が谷に、法勝寺の執行俊寛僧部の山荘がある。

いつもなら人影もなく寂しいところであるが、どうしたのか、こよひは、ぬば玉の闇夜をついて、人目をよかるようすの人々

顔の官位の高そうな男が一座を見まわして静かに口をきいた。

「さて御一同、平家の専横は目に余るものがあり、そのために万民は苦しむ、恐れ多くも法皇様さえご不自由なまされるといふ大事に直面して居ます。これをこのまゝ放つておくことは政治を乱すものになると思ひますが、この事態をどうのようか解決していくかをじっくりと相談願ひたい……」

そう言つて、もう一度みんなの顔を一人一人見まわした。

この人が新大納言藤原成親といつて、白河法皇お氣に入りの公卿である。

彼の言葉を待っていたように、坊主頭の、目のぎよりに光つた西光法師が、肝玉の太さうな面構えで、

「どうするも、こうするもない。平家を打ち倒す以外に道はない」といふ。平家を打倒す以外の道はない。それが、きつかけとなつて一座の者は、それぞれ意見を述べ、六月の祇園会を期して平家打倒の兵を挙げることを決めた。

そして、その家の主人である俊寛は、こころあひを見計つて

「それでは、決行する手段として、行綱どのが先頭に立て、源氏の武將に呼びかけて東国といわす、西海といわす、全国から源氏の殘党を集めるよう手だてを進めたい」といふ。

# 俊寛

## 北素明

天皇崩御となり、その御世嗣を定めるに公卿大臣左右に分れ、免角定まらず、終に相撲によりその勝負に勝つた方を世嗣に立つる事になり、さん候大事の勝負の事なれば折衝を行わねばならぬと、惟簡の御折衝には楠本貴直、又惟仁の御折衝には比叡山の恵了和尚と双方肝腹を砕き御折衝ありければ、西方に大威徳明王の召された牛が山ひびけと三声唳えたと云う。画にかけける牛だにも人の心をあわれみて声を出した。何ぞや己れは生ある物の事なれば一声にても心があらはれ吠えてくれよ、い、横座と叫ぶ。

牛は一声モウと鳴く。牛主は目度く牛を連れ我が家へ帰る。この牛の着たる面に流用する。(終)

大変なことになったと思つたが、もうどうすることもできないハムになって自分の立場を考へて諸國源氏を集める方策について自信なげにその計画の一端をほめかした。

話が決つたところで、また酒が出されて酔が廻ると、もう清盛の首でも取つたよな大言壮語が一座の空気を一段と華やかに元気に満ちたものにしていった。

その時、成親の衣の袖が瓶子をひっかけ倒し、酒がどくどくと床に流れた。

法皇の前で不作法なと思つたが「やや、瓶子が倒れた……平氏が倒れたんでぞ」といふ。

と大声をあげて、とっさの機転で、自分の立場をこまかした。

その言葉に法皇ははじめ、みんながいっそう元氣になつて、

「平氏(瓶子)の首をとろう」とばかり、並んでいる瓶子の首を一つ一つ切つて切つて切つて切つた。

この集りから帰つた源行綱は、決行すべきか、脱走すべきか、思ひ迷つて数日を過ぎた。

要するに、このはかりごとが成功するか、どうかによつて、自分の運命を大きく明暗に分けると、それが心配だつたからである。

幾夜も寝ずに考えぬいたあげ、行綱は重大な決心をした。

五月二十九日夜、月のないのを幸いに、行綱は西七条の清盛の屋敷に侵入した。

# \*私の健康法につながる\*

## 柴田 初太郎

ここで私の青年時代の話として、何故謡曲に専念したかをつまんで述べさせて置きます。

私は元來商人には不向の性質である事を自覚しています。名古屋市立商業学校在学中十五才で前向の青木氏と申す人に師事し、謡の稽古を始めました。この時代は名古屋は京都流の謡でした。強吟は現代と異なり、殆ど和吟の様でした。十八才の春卒業して、私の考案好きのため、私の自宅が小鳥の輸出を致しておりました関係上、凡ての品が機械製なるのに、鳥籠が手造りでは如何にも時代遅れと考へて穴明機を考案し、又竹箸の機械を改良して箸の製造機を作りました。又大和籠を申して墨根型の折疊の籠即ツクタクツンの籠を考案し、新案登録を十何種も受け、盛んに米國へ輸出しました。とても時代に当りましたので、ヤマトケージと申し、注文に応じきれない程の好況で、利益も相当ありました。

それそれ人を雇ひ、私は人任せで機械の改良のみに私の発明の智慧を振ひ、不向きな商取引は他人任せでした。そのため好きな謡は少しも心配なく出来ました。とにかく独占事業ですので、私の考案の品が米國人に好まれたためでした。

八、能が吸収した先進芸能と後進に業を授け与えたもの一覽

發行所 芸能研究会

大宮市吉敷町三ノ五八

富岡伸吉編著

「芸能百家系譜」

この系譜は、日本民族の持つ、豊富多彩な文学、芸術の中から、能、狂言、茶道、短歌、俳句、舞踊、浄瑠璃等の愛好家研究家の教養として、知識として、それぞれの、発展系路並びに、宗家元分家等の系譜、更に歴代内閣総理、文部大臣就任の年月等を附録し編纂したものである。

一部 三百頁

お希望の方は、能楽の友社にでもお取次ぎ致します。

送付とも三百円です。申し込み

# 新刊紹介

喜寿記念

富岡伸吉編著

「芸能百家系譜」

この系譜は、日本民族の持つ、豊富多彩な文学、芸術の中から、能、狂言、茶道、短歌、俳句、舞踊、浄瑠璃等の愛好家研究家の教養として、知識として、それぞれの、発展系路並びに、宗家元分家等の系譜、更に歴代内閣総理、文部大臣就任の年月等を附録し編纂したものである。

一部 三百頁

お希望の方は、能楽の友社にでもお取次ぎ致します。

送付とも三百円です。申し込み

の友社
日本町2-20
(64)
7 9 8 4
3 6 3 9 3
円 400
円 500
円 35



ケツチ

仙田雪山子

この能は、はじめより終りまで皆たけたる音曲なり」と申され

鶴使は殺生の罪で無間地獄に墮つべきにと法華経の功德を説き「法

五月二十二日(土) 午前十時始

熱田神宮 能楽殿

三三七七六(四)

戸田 秀雄

田嶋 静子

谷沢トミコ

田嶋 一郎

森田 光春

能楽殿御用達 割烹料理仕出し

かやみ西

名古屋市西区浅間町 電話(531)5507・6666

友大

ナゴヤ納屋橋畔店 (231) 2709-6818

名鉄百貨店九階のれん茶屋店

能楽の友創刊5周年  
記念特集号

# 能楽の友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

発行 能楽の友社  
名古屋千種区吹上本町2-20  
(郵便番号 464)  
電話 (731) 7984  
振替口座 名古屋 36393  
購読料 1年 400円  
郵送の場合 1年 500円  
一 部 35円

愛読者をはじめ、能楽界関係者のご支援のもと、創刊五年のあゆみを  
開いた能楽の友紙では、七月十八日熱田神宮能楽殿で、「発刊五周年  
記念能」を開催する。  
能楽へのガイドとしてスタート、創刊から五十号を超える紙巻を数  
えることができたが、その課題はまだまだ大きい。しかしながら能楽  
愛好者の暖かいご声援によって定期刊への軌道をつくり出すことが  
できた。この機会に読者の声を中心に反省をふくめて編集同人が語り合  
った。

## 能楽愛好者とともに の友 編集同人座談会

司会 創刊五年という歩みがか  
きたが、まず紙面について、読者  
の声といったところから――  
内藤 ラジオの放送の番組が教  
えて頂けるので有難いという声を  
よく聞く。  
柴田 その声はたくさんある。  
高安 ラジオ放送は「能楽タイ  
ムズ」(能楽書林発行月刊)にも  
掲載されているが大衆紙としての  
「能楽の友」で報道する意義は十  
分あると思う。中部地方に行きわ  
たっているだけにつねづねその声  
を聞いている。  
二井 新聞の表題が「能楽の友  
」であるとおり、流儀にこだわら  
ずに能楽の愛好者に喜んで頂ける

とすることが一番大切じゃないで  
すか、「友」ということが五年の  
間にある程度固まってきたとい  
える。  
杉村 放送番組のお知らせと新  
聞発行日のズレがあるのは読者に  
迷惑をかける。  
野村 放送番組が一カ月前にわ  
かるといいですが、読者のところ  
へ届いたとき済んでしまっている  
ということがある。  
司会 編集的にもそれを痛感し  
ている。予定番組なので、変更に  
なる場合もある。なんとかNHK  
に要望したいですね。  
内藤 大槻先生の「拍子謡につ  
く」(二面へつづく)



「翁」のスケッチ 仙田雪山子画

## 発刊五周年を迎えて!!

暑中見舞いについて  
を頂いておりますが、紙面の都合  
にて、七月号、八月号に掲載させ  
て頂きますのでご理解賜りますよ  
うお願い致します。(編集部)

### 演能カレンダー

- [7月]
    - 10日(土) 竹韻会40周年記念素踊会 (有料)
    - 11日(日) 朝日狂言会 (有料)
    - 18日(日) 能楽の友発刊5周年記念能 (有料)
    - 24日(土) 素踊と持能の会 (梅猶会) (有料)
    - (番組②面掲載)
    - 28日(水) 青少年芸術劇場
  - [8月]
    - 1日(日) たなびき会
    - 7日(土) 名古屋新能 (熱田神宮特設舞台)
    - 8日(日) 観世会第四回素踊会 (有料)
    - 15日(日) 日本能楽会能 (番組①面)
    - 22日(日) 名古屋金春会
  - [9月]
    - 5日(日) 大衆能 (有料)
    - (愛知県文化講堂)
    - 12日(日) 観世左近三十三回忌追善能 (有料)
    - 18日(土) 麦の会
    - 19日(日) 中部金剛会
- ―以上熱田神宮能楽殿―

暑中御伺い申し上げます

- 熱田神宮 宮司 篠田 康雄
- 権宮司 長谷 晴男
- 熱田神宮 能楽殿
- 名古屋 能楽会
- 法入 名古屋 能楽会

- 能半 観世 元正
- 能半 野 守 大坪十喜雄
- (観) 仕舞 野 政 観世 晋之
- 野 宮 大槻 秀夫
- 岡田川 武田大加志
- 宝生 九郎 田鍋惣太郎
- (宝) 一調 勸進帳
- 子方 辰巳満次郎
- 辰巳 孝
- 宝生 英雄
- 高安 滋郎
- 能望 月 自由席 一、五〇〇円
- 一、〇〇〇円

静交会 高橋 静夫 東京都世田谷区若林三ノ三ノ三 電話(四二二) 一三二八番	井上 嘉久 京都市北区紫野下鳥田町六	大江 又三郎 京都市東山区本町二十丁目 電話(五六二) 〇六二二番	名古屋 観世九皇会 観世喜之 増本 秀雄 塚本 滋雄 有賀 滋子 長谷川 美智子 高木 美智子 加藤 武彦 青木 武彦 吉田 武彦	暑中見舞い お返し	名古屋 観世会	中日文化センター特別教室 観昭会 昭門会 観世 元昭	観世 元正 東京部渋谷区恵比寿南 一―二十一―十四	片山 博 太倉郎	幽花会 片山 慶次郎 〒603 京都市北区小山下花ノ木町二一 電話 四九二一五三〇二番	大槻 清韻会 大槻 秀夫 大槻 文蔵 大阪市東区上町二番地	掬水 会 柴田 初太郎 柴田 収武	潤水 会 林 甲子生 名古屋千種区今池町二ノ四九 電話(〇五二) 七三一一四一八三	名古屋 淡交会 橋岡 久共
--	-----------------------	---	--	--------------	---------	-------------------------------------	---------------------------------	----------	--	--	-------------------------	--	------------------

能生流 望月 高安 滋郎 田鍋惣一郎 親世 元信 井上松次郎 田鍋惣一郎 春田 光春 (後五時頃)

月十一日、十二日の二日間、生国魂神社境内で行なわれる。能は、第一日「大蛇」(辰巳孝)「千手」(山本博之)「鞍馬天狗」(大西信彦、大西信久)第二日は「大西信彦、大西信久」(辰巳孝、大西信彦、大西信久)

本店 東門 本神宮





立業 大嶽賢次郎  
池内幸三郎  
佐藤三太郎  
前田太三郎  
山田芳周

八月八日(日)正午始  
熱田神宮 能楽殿

徳島正韻会  
電話大阪(七〇二)五二五七  
電話東京(三三三)五二五七

毎日婦人文化センター  
親世流 謡曲教室  
風山韻会

### 大槻秀夫

1 2 3 4 5 6 7 8  
1 1 1 1 1 1 1 1

の「つきにうそむき」みづにたわむれ「なまをうがちイ。そでをかへすやー」。

「人間の」この句が平ノリだとすれば、「や」にんげんのオミづは「みなみ」となる。右の割付けと較べて見て、

「星は」の句は平ノリである。「天の」の句は中ノリであるからヤの間になっている。下句の七拍の処に生ミ字を付けるのは前述の通りであるが、中ノリの場合も必ず生ミ字を付けるとは限らず、「ちりぬるを」と「ちりぬるを」と二通りある。

「立ち添ふや」は当るヤの間で出て、引きを付けて七文字の謡い方をさせている。これは前回記した田村の「雨殿」と同じ行き方である。併しこの句は当ヤの間にせず、「くもの」なみー。立ちイ添ふや」とヤの間に出る謡い方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

以上の如く平ノリ物は、その一節が悉く中ノリと云う事はなく、処々に平ノリも交るものであると云う事を知って頂きたい。

「夜も更けて」は平ノリならば「よもふけてー」と七拍には生ミ字を付けない。「夜半楽」の句は平ノリならば申す迄もなく間なしである。

「夜も更けて」は平ノリならば「よもふけてー」と七拍には生ミ字を付けない。「夜半楽」の句は平ノリならば申す迄もなく間なしである。

「波を穿ち。袖を返すや」が一句で、これも上句と下句の間に句読点がある。そして謡い出しはやはりヤの間で出るのである。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「夜も更けて」は平ノリならば「よもふけてー」と七拍には生ミ字を付けない。「夜半楽」の句は平ノリならば申す迄もなく間なしである。

「夜も更けて」は平ノリならば「よもふけてー」と七拍には生ミ字を付けない。「夜半楽」の句は平ノリならば申す迄もなく間なしである。

「波を穿ち。袖を返すや」が一句で、これも上句と下句の間に句読点がある。そして謡い出しはやはりヤの間で出るのである。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「夜も更けて」は平ノリならば「よもふけてー」と七拍には生ミ字を付けない。「夜半楽」の句は平ノリならば申す迄もなく間なしである。

「夜も更けて」は平ノリならば「よもふけてー」と七拍には生ミ字を付けない。「夜半楽」の句は平ノリならば申す迄もなく間なしである。

「波を穿ち。袖を返すや」が一句で、これも上句と下句の間に句読点がある。そして謡い出しはやはりヤの間で出るのである。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

### 謡曲雑話 西村弘敬

私が先に古曲雑話と題して現行曲に無い古曲の、内容筋書等のあるまじしを当紙に掲載致しました。その後暫く休載しておりましたが、今回又謡曲雑話として再び掲載することに致しました。これは主として現行曲で各流共に行われて居るものでも、謡本を讀んだだけでは充分に判りにくい事や、隠れたる事、地理的の疑問などいくらかありますが、これ等の事でも演能の時には中入に狂言問語(あいがたり)で脇と問答して物語して聞かして呉れるので、これをよく聞いて居れば謡本に書いてない事柄がいろいろ判るのです。

「人間の」この句が平ノリだとすれば、「や」にんげんのオミづは「みなみ」となる。右の割付けと較べて見て、

「星は」の句は平ノリである。「天の」の句は中ノリであるからヤの間になっている。下句の七拍の処に生ミ字を付けるのは前述の通りであるが、中ノリの場合も必ず生ミ字を付けるとは限らず、「ちりぬるを」と「ちりぬるを」と二通りある。

「立ち添ふや」は当るヤの間で出て、引きを付けて七文字の謡い方をさせている。これは前回記した田村の「雨殿」と同じ行き方である。併しこの句は当ヤの間にせず、「くもの」なみー。立ちイ添ふや」とヤの間に出る謡い方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「夜も更けて」は平ノリならば「よもふけてー」と七拍には生ミ字を付けない。「夜半楽」の句は平ノリならば申す迄もなく間なしである。

「夜も更けて」は平ノリならば「よもふけてー」と七拍には生ミ字を付けない。「夜半楽」の句は平ノリならば申す迄もなく間なしである。

「波を穿ち。袖を返すや」が一句で、これも上句と下句の間に句読点がある。そして謡い出しはやはりヤの間で出るのである。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

「かすは六つの」の「は」に引きが付けてあるが、これは生ミ字でなく引きであるから、その通り引いて謡うのであって、ノリは一層良くなるのである。返しの「現か夢」は「うつつかーゆめ」と切って謡う取り方もある。

NHK第2毎週 日曜午前8時~9時	
7月11日(日)	喜多流「忠度」喜多長世
7月18日(日)	親世流「山姥」坂井次郎
7月25日(日)	親世流「葵上」井上喜久
8月1日(日)	親世流「賀夜」杉浦義朗
8月8日(日)	宝生流「黒塚」梅若万三郎他

**城**  
割烹・小料理  
●熱田神宮能楽殿喫茶部  
●住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248  
●喫茶・グリル(愛労研地下ビル) 電話 731-1128

欧風料理 とんかつ **とんかつ**  
名古屋市中区栄4丁目4-11 TEL 731-3680

民芸料理 **乃志乃**  
中区栄4丁目9-5 電 241-9078番

宗家 宝生九郎著 全八巻  
**宝生流囃子仕舞全集** 価 2500円 90円  
第六巻まで発売中  
第五巻収録曲目 (つ~は) 土車・経政・鶴亀・天鼓・藤葉・東岸居士・唐船・東北・藤・木賊・巴・鳥追・難波・錦木・湖・野宮・野守・羽衣・半藤・橋弁慶・芭蕉・鉢木・花魁・班女  
第六巻 (ひ~ま)  
東京都千代田区神田神保町3-9 電話 東京 4163 茶 **わんや書店** 東京都中央区銀座8-1 電話 (571) 61

あなたに心をこめておくりする……  
**富士道の婚礼道具**  
**家具の富士道**  
本社 ショールーム 工 場  
名古屋市中区栄3丁目34番40号 TEL 代表 (262) 5547  
愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178

小鼓の名手田鍋惣太郎氏、八十... 八の老師、名古屋能楽界、いや日... 本能楽界の最長老、しかも現役の...

六月下旬日加壽能を終ってホッ... とひと息、名古屋市八月月見ヶ丘... の新居に修々自適の田鍋老を訪ね...

道成寺 「道成寺は... 三十才ころの披露から今回まで五... 十四回やった。八十八はおるか、...



田鍋惣太郎師

いとなると恥ずかしいからな。こ... んども内々自信はあったもの、年... だか。多少気にならぬないで...

先代権者万三郎 私は万三郎... が大好きで、よくお付合ひもし... たし思い出も多いが、ソウ、ソウ...

田鍋老人大いに語る... いや、鼓を打ちながら後から見... てみると、正面から見ると以上...

後見 昔はよかった、よか... ったという、若い人にしかられ... るかも知れないが、たしかによ...

離子 鼓は次第でシテが出... るまでが勝負だ。一番苦心する... ころだね。曲の位を鼓ひとつで演...

よく、曲をリードするのはシテ... か唯子かといわれませんが、実力... ですね。力のあるものが一曲をリ...

後見といえは万三郎、また万三... 郎かとおっしゃるが、なんととい... ても私は万三郎が好きなんだし、...

歌舞伎でもそうじゃないか。... 私は歌舞伎が好きで、東京へい... と歌舞伎座、帝劇、演舞場など...

多くのじゃないか。ハ... が多いのじゃないか。ハ... が多いのじゃないか。ハ...

よく、曲をリードするのはシテ... か唯子かといわれませんが、実力... ですね。力のあるものが一曲をリ...

後見といえは万三郎、また万三... 郎かとおっしゃるが、なんととい... ても私は万三郎が好きなんだし、...

歌舞伎でもそうじゃないか。... 私は歌舞伎が好きで、東京へい... と歌舞伎座、帝劇、演舞場など...

の友社... 次上本町2-20... 464... 7984... 屋36393... 1年400円... 1年500円... 35円

第六回 名古屋新能 能「吉野天人」「鶉飼」上演

Table with 4 columns: Actor Name, Role, Agency, and Contact Info. Includes names like 梅若六郎, 橋香会, 研能会, etc.



◎ 秋の近江路を訪ねる ◎  
第3回謡曲各所めぐり

(コース) 三井寺・石山寺・関蟬丸神社  
など  
と き 10月10(祝)  
会 費 3,500円  
定員50人・当社にて申込み受付中

# 能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田富司筆

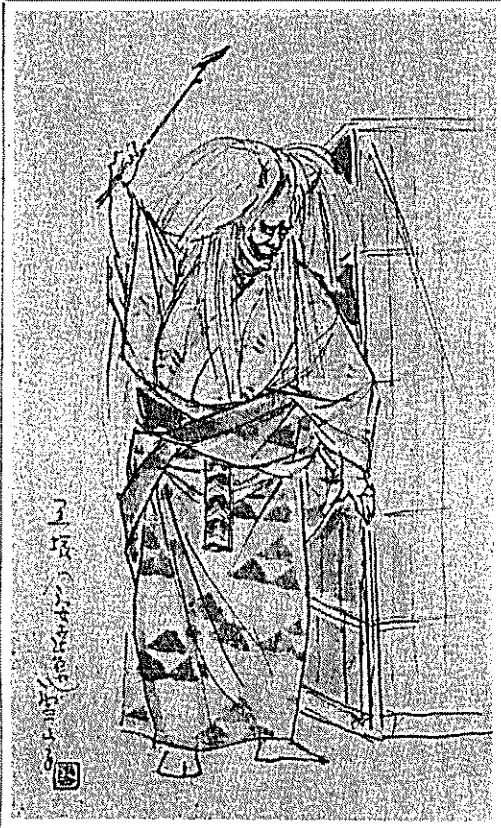
発行 能 楽 の 友  
名古屋千種区吹上本町2-20  
(郵便番号 464)  
電 話 (731) 7 9 8  
振替口座 名古屋 3 6 3 9 3  
購 読 料 1年 400円  
郵送の場合 1年 500円  
一 部 35円

## 9月に観世左近追善能

熱田神宮神苑にくりひろげられた名古屋新能(八月七日)に続いて八、九月の能楽界はまず八月十五日、熱田神宮能楽殿で社団法人日本能楽会(重要無形文化財保持者)の名古屋での第二回演能が行なわれる。

この重要無形文化財総合指定の公演は毎年秋東京で一回、地方で一回だけ開催されるもので、今回の番組は、能観世流「半蔵」(シテ観世元正、ワキ岡治郎右衛門)宝生流「望月」(シテ宝生英雄、ワキ高安滋郎)狂言和泉流「蝸牛」(野村又三郎ほか)一調「勸進帳」(宝生九郎、田鍋惣太郎)「野守」(柴田初太郎、鬼頭太郎)、仕舞四番、東西、地元名古屋の重要無形文化財保持者の出演による風格ある芸術性が期待される。 (番組④面)

主催社団法人日本能楽会、後援文化庁、名古屋能楽会、能楽協会名古屋支部。  
九月の演能は、伝統をもつ大衆能(九月五日、愛知文化講堂)と観世左近三十三回忌追善能(九月十八日、熱田能楽殿)を中心に催される。  
観世流二十四世故観世左近元滋師は、昭和十四年三月四十三才で



子孫の(おまじない) 斎藤

「みちのくの安達原の黒塚に鬼こもれると聞くはまことか」と刻まれた一首、大和物語にある平兼盛(正暦元年九月十二日没)の歌で、一説には拾遺果の「いふはまことか」に依るとも云われている。曲の作者は、近江の佐阿弥とも

### 安達原 (黒塚)

スケツチと文 仙田雪山子

福島県安達郡二本松町大平がふる里、阿武隈川の流に沿った丘に老杉林立、それに囲まれた巨巖奇石が築、その石窟に鬼女が棲んでいたといふさか不気味なところ、鬼娶い場所と伝えてこの曲の典拠となった古碑が建っている。

宮増とも金春禪竹とする向きもある。名も観世、梅若が安達原、他は黒塚となつてゐる。能楽源流考参証に安達原初演を寛政六年(一四六五)としている。  
風姿華伝鬼の条に「これ殊更大和の物なり」と鬼の能の物真似は、大和中業の特技であると演技についても別紙口伝に詳しく述べている。

安な世相の観世感、浄土欣求の思潮とあいまって能楽興行が融合したのは必然と思える。  
かくして現在二百数十曲が残されているが、鬼畜ものとしては葵上、土舞、安達原の三曲だが、そのいづれかも秀曲として知られるのである。妖精の鬼女は山姥があるが、人を取り食う女鬼の文献は無いようである。  
〔仏学辞典〕羅刹、悪鬼神(梵語ラクシュミ)羅叉婆、羅叉婆、阿洛利婆(梵語アラクヤシヤ)とも書き、可畏、速疾鬼、護者と訳す。その女性を羅刹斯、羅叉私(梵語ラクシヤシ)という鬼女の総名、男は醜く、女は美しい、いづれも人の血肉を食う空中を飛ぶこともあり、極めて疾く、畏るべき鬼の鬼。  
〔鬼子母神〕吉祥(キケニ)―吉祥果、魔除の果実とされる。  
〔中国古典選〕「韓愈、張籍、孟郊、張翥、会合聯句」  
鬼窟脱幽妖(天居) 清洪(滄浪) 詩話 晚唐之下者亦隨野狐外道 鬼窟之中。  
〔日本書紀〕吾欲今(挽)平葦原中国之邪鬼。  
〔万葉集〕天雲之外從見吾妹子 兩心毛身副絞西鬼毛。  
以上は安達原鬼女の、そのらしきものの覚である。

### 演能カレンダー

〔8月〕	
7日(土)	名古屋新能 (熱田神宮特設)
8日(日)	観世世第四回楽謡会 (番組④面)
15日(日)	日本能楽会能 (番組④面)
22日(日)	名古屋金春会
〔9月〕	
5日(日)	大衆能 (有料) (愛知県文化講堂)
12日(日)	観世左近三十三回忌追善能 (番組④面)
18日(土)	妻の会 (番組④面)
19日(日)	中部金剛会
26日(日)	藤門会 (来場)

### 8月放送予定

NHK第2局 日曜午前8時	
15日(日)	下懸宝生流「精人鼓」
22日(日)	大藏流「天鼓」
29日(日)	観世流「俊寛」
9月5日	金春流「恋重」
12日(日)	下懸宝生流「張和泉流「葉

金剛流 瀬月会 今井 幾三郎	中部 金剛会 山田仁三郎	金剛流 春鶯会 山田仁三郎	豊島 弥左衛門 島三 千春 京都市東山区知恩院山内林下町	金剛 永謹	金剛 巖	林 鉄郎	本 田 光 洋 東京都中野区上高田二の二五ノ二 電話(三三六)二六四一	金 春 欣 三 東京都町田市玉川学園四一三十四二 電話(〇四二七)八四三八番	道声会 尾関健太郎
-------------------	-----------------	------------------	------------------------------------	-------	------	------	---	--	-----------

喜多山 本才	二井 栄選	和 調 会	大 阪 喜多会	伊藤 鉄之進	大川 嘉奈子	吟 風 会	廣 田 後授会	廣 田 陸 幸 稔	金剛流 塚清 風社 千464 名古屋千種区城山町三丁目 電話(七五)五三八九番	菊 扇 会 東 大 名 古 屋 京 阪	廣 田 泰 三
--------	-------	-------	---------	--------	--------	-------	---------	-----------	--	------------------------	---------

## 第六熱

(野村又三郎、井上松次郎、佐藤秀雄、井上礼之助の諸師)のほか舞臺子、仕舞八番で、ふんい氣をもち上げ、深遠な神宮の境内で演じられる。

A しかし、むつかしいなあ。  
B そうかなあ。

能 狸 々 乱  
久馬 高安 勝久

名古屋能楽鑑賞会

普通一分間十七、八回の呼吸を十、三回に減じて、なるべく充分に吐いて酸素を普通の人の倍くらい吸うように努めることが私の神

料理と樽 安 名 電

# 行紀 瘦男

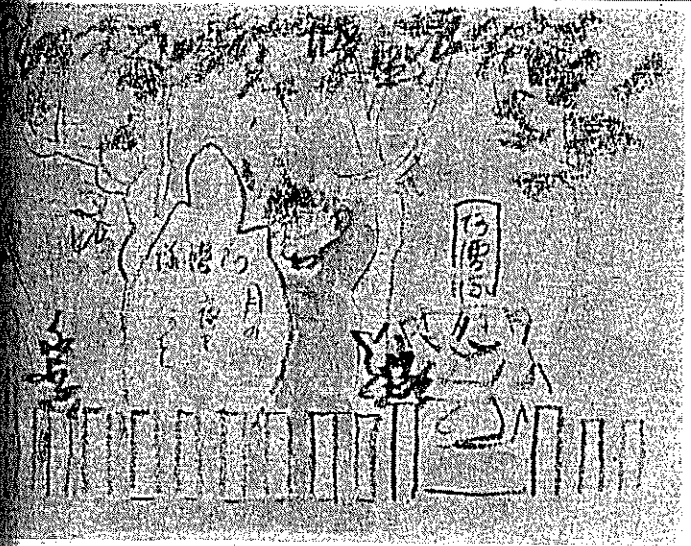
逸 栄 井 二 文と絵



「瘦男」

あり物静かな一角である。遠い古えの事。漁夫、平治が阿漕浦で密漁したとがよって、お仕置きになった。阿漕浦は伊勢大神の御野(みくりぎ)といつて禁猟地区であったが、それと知りながら、母の病気を治す為この浦だけに矢柄(やがら)といふ魚をとってとらえられ、す巻きにして海に沈められた。この孝子平治の為、土地の人々は八月十五日、十六日の両日、平治盆といつて平治供養の盆おどりをやっている。思ひや、富士の高ねに、ひと夜夜、雲の上なる月を見むと。この歌の心を感じるには、一夜の御祭り

今年も半夏生がまの頃き白い葉をつけ始めた。晩春から夏にかけて咲く野草の花は、春の野草とちがって一段と水々しくなる。夏の夕暮、涼やかな風にゆれながらひっそりと咲く淡紅色の夕化粧や河のつらみにはかり夢の扇をひらく鮮黄色の待宵草等の風情はまことに情緒づくづくもない。山を庭に取り入れた下郎は、そのような情趣がばいである。F郎の訪問をかねて阿漕浦をたずねて見る。瘦の大樹が五本ばかりうっそうと茂った根元には阿漕浦と彫った古碑があり、そのそばに、月の夜を何を阿古木に鳴く千鳥、と彫った句碑がある。作者は芭蕉とあるが、実際は芭蕉でなく、完米という俳人の作であるらしい。瘦は珍らしく見事なもので、吹く風こそそろそろとそよいでいた。



此の地方に住んだ伊勢平氏が、語源になつたかも知れないとの事である。阿古木草紙には伊勢平氏盛光の子次盛此処に網引して処刑せられた事が記してある。資料としては、古今和歌六帖に鯛と題した歌の「遠うことをあこぎの島にひく鯛のたびかさならは人も知りなむ」から出た説話により、世阿弥がこの名曲を作ったのである。源平盛衰記の讃岐院事に。――さて西行発心の起りを尋ねれば、源は恋故とぞ承る。申すも恐れある上臈女房を思ひかけまいらせたりけるを、あこぎの浦ぞといふ仰せを蒙りて思ひきり、宮位は春の夜見はてぬ夢と思ひなし、素しみ榮えは、秋の夜の月西へとなぞらへて、有為の世のちぎりをのがれつゝ、無為の道にぞ入りにつる。

たびすることという語で、俗に、際限なくむさぼることに使われる意味からも、あこぎが面白いのではないだろうか。この阿漕の能の後シテ阿漕平治の亡霊に使われる面を瘦男(やせおとこ)という。

阿漕では、漁夫が密漁したとがよってお仕置きになり、その亡霊が現われ罪科の苦責を訴える最も陰惨なシテでなければならぬ。し鳥頭(告知鳥)では、一種怪奇玄深の趣きを促したシテである。鳥やけだものをがむしやらに追いましさがほしいような気がする。又、通小町のように品位のある深草少将の百夜通い、男性の愛欲と、冷酷な女性の翻弄に痛切な執念をたぎりす瘦男でなければならぬからである。氷見(ひみ)のするとき、赤鶴(じやくづる)や龍右衛門(たつえもん)の彫刻的技巧のすばらしさ。何にしても瘦男はすぐれた芸術性をもっている。(スケッチは阿漕塚及び瘦男)

この阿漕の能の後シテ阿漕平治の亡霊に使われる面を瘦男(やせおとこ)という。

何故そのようにする事が出来るのか。又何故そのようにするのが良いのか。こゝでまづ、大小鼓のつゞけと云う手配りと、三地と云う手配りを記して見る(三ツ重)である。

拍子謡について  
大槻秀夫

何故そのようにする事が出来るのか。又何故そのようにするのが良いのか。こゝでまづ、大小鼓のつゞけと云う手配りと、三地と云う手配りを記して見る(三ツ重)である。

豊 嶋 十 郎 〒二七一 松戸市下矢切五五 電話(〇四七三) 〇一九八二	西 村 欽 也	西 村 弘 敬	高 安 滋 郎	衣 斐 正 宜	長 田 正 宜	麦 田 正 宜	福 王 茂 十 郎 大阪府東区平野町一ノ二五 西宮市名次町六ノ二二	福 王 輝 幸 福 王 信 光	福 王 茂 十 郎 福 王 輝 幸 福 王 信 光	寛 鈺 一	吉 田 定 男	長 生 会	野 崎 太 郎 鬼 藤 喜 八 郎 鬼 藤 喜 八 郎	池 田 茂	助 川 竜 夫	山 口 義 郎	朝日文化センター 雛 子 教 室 田 鍋 惣 一 郎 寛 三 男	大 倉 長 十 郎 正 之 助 西宮市松園町一三三 TEL(〇七九八) 〇二五七番	幸 竹 会 寛 三 男	基 義	基 義
京都高安会 岡 治 郎 右 衛 門 京都府乙訓郡長岡町 岡 田 静 野 一 一 一 七 電話(〇七五) 九三二二五三番	高安流白水会 和 泉 太 郎 東京都品川区三葉二八八十二 電話(七八六) 四〇九二番	谷 田 宗 二 朗 京都市北区衣笠街道町31-7 電話(〇七五) 四六三一四八七五	高安流協方 山 崎 俊 輔 〒836 大牟田市馬場町五七	衣 斐 正 宜	長 田 正 宜	麦 田 正 宜	福 王 茂 十 郎 福 王 輝 幸 福 王 信 光	福 王 茂 十 郎 福 王 輝 幸 福 王 信 光	福 王 茂 十 郎 福 王 輝 幸 福 王 信 光	寛 鈺 一	吉 田 定 男	長 生 会	野 崎 太 郎 鬼 藤 喜 八 郎 鬼 藤 喜 八 郎	池 田 茂	助 川 竜 夫	山 口 義 郎	朝日文化センター 雛 子 教 室 田 鍋 惣 一 郎 寛 三 男	大 倉 長 十 郎 正 之 助 西宮市松園町一三三 TEL(〇七九八) 〇二五七番	幸 竹 会 寛 三 男	基 義	基 義

何故そのようにする事が出来るのか。又何故そのようにするのが良いのか。こゝでまづ、大小鼓のつゞけと云う手配りと、三地と云う手配りを記して見る(三ツ重)である。





### 演能案内

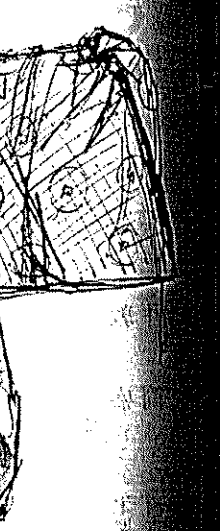
観世会定式能  
四十六年度第四回  
八月八日(第二日曜日)正午始  
熱田神宮能楽殿

素謡組  
経正クモ 服部 紗枝  
巻網キリ 有賀 滋子  
唐船 加藤 良久  
班女アト 熊沢 恵美子  
鞍馬天狗 福井 道子  
仕舞 雨月 藤波 重瀧  
盛盛 木原 康夫  
舞囃子 玄象 柴田初太郎 吉田 定男 鬼頭 八郎  
舞囃子 筒筒 山本 勝一 藤波 重瀧  
素謡井 通盛 木原 康夫  
仕舞 花盛 浦田 保利  
船弁慶 藤波 重瀧  
素謡山姥 藤波 重瀧 浦田 保利

重要無形文化財能楽総合指定 第二回  
社団法人日本能楽会 名古屋公演  
八月十五日(日)午後一時始  
熱田神宮能楽殿

能楽流 半 観世 元正 菅岡 治郎右衛門 谷口 喜代三 藤田 六郎兵衛  
観世流 半 菅岡 治郎右衛門 田鍋 惣太郎  
後見 柴田初太郎 加藤 文太郎 梅田 邦久  
武田太加志 地謡 杉村 甲子夫 大槻 喜之  
観世流 野守 柴田初太郎 鬼頭 八郎 井上礼之助  
仕舞 車 儀 大塚 十喜雄 地謡 前田 忠文 文蔵  
宝生流 野頼 野村又三郎 佐藤 卯三郎  
観世流 野頼 野村又三郎 佐藤 卯三郎  
仕舞 野頼 野村又三郎 佐藤 卯三郎  
観世流 野頼 野村又三郎 佐藤 卯三郎  
仕舞 野頼 野村又三郎 佐藤 卯三郎  
観世流 野頼 野村又三郎 佐藤 卯三郎

の友社  
上本町2-20  
(64)  
7984  
36393  
年 400円  
年 500円  
35円



子画

能半 観世 元正  
熱田神宮能楽殿  
大塚十喜雄

観世元正  
片山博太郎

片山博太郎  
熱田区神戶町34  
電話 (671)8686-8  
熱田区新宮坂町1  
電話 (682)5598(代表)



盛大に記念能開催

能楽の友社創刊五周年の記念能は、七月十八日熱田神宮能楽殿で開催された。  
当日は、第一部が各社有志の出演で、素謡二番、独吟、仕舞、連吟十番が演じられ、見所も熱心な愛好者が詰めかけた。  
午後一時から第二部開演、能「翁」(観世流)能「義老・水波」(宝生流)能「羽衣」(宝生流)能「乱」(観世流)の四番、狂言「鬼丸」舞囃子「田村」(観世流)独吟「翁之段」(並春流)「勸進帳」(並春流)舞囃子「拍子」(観世流)「八島」(宝生流)と各流がそろっての出演。見所も大変な盛況で演者、観客一体となった熱演がくりひろげられ、激しい夕立の雨もあがり午後五時終演した。

観世左近三十三回忌  
追善能  
九月十二日(日曜)午前十一時始  
熱田神宮能楽殿

橋岡 久共  
観世 元正  
経 西村 欽也  
恋之音取 田鍋 惣太郎 一増 唐二  
後見 片山博太郎 地謡 加藤 文太郎 梅田 邦久  
武田太加志 真柄 米次 高野 頼透  
大江 将重 梅田 邦久  
仕舞 道明寺 舞 柴田初太郎 観世 静夫  
融 舞囃子 藤田 昭彦  
松 風 片山博太郎 福井 啓次郎 藤田 昭彦  
休 憩 (十五分)  
野村 四郎 観世 元正 安福 春雄 小寺 金七  
観世 元正 大倉長十郎 藤田 六郎兵衛  
井上礼之助

後見 大槻 秀夫 竹内 六郎 林 甲子生  
山本 博之 佐藤 卯三郎 藤田 志房  
地謡 藤田 志房 完治 武田 志房  
狂言 和泉 保之 野村又三郎  
悪太郎 舞囃子 吉田 定男 鬼頭 八郎  
三笑 大槻 秀夫 田鍋 惣太郎 一増 唐二  
義経 片山博太郎 清司 久  
江田 邦久 熊井 邦久  
熊井 邦久 観世 喜之

正尊 高安 滋郎 河村 総一郎 小寺 金七  
起請文 藤井 秀雄 大倉長十郎 寛 三男  
立衆 久田 秀雄 佐藤 秀雄  
久田 秀雄 佐藤 秀雄

観世元正  
名古屋観世会  
(終了五時頃)

### \*私の健康法につながる\*

熊坂の文句に通らうも悟るも心ぞやとあります。されば心を置くことが一番大切であります。私どもの芸道は勝負と闘います。修業第一で人格の向上に努めなければなりません。

心の持ち方による健康法  
健康法は只々腹式呼吸法のみでは完壁ではありません。精神の持ち方と、食事法であり、この食事のことは二木博士の説によることは一寸申し上げました。

ここでは一番むづかしい困難な仏道につながる健康法を申し上げます。まず第一に立腹せぬこと、第二に人に親切であること、第三に不平不満なきこと、第四毎日を愉快に暮らすこと、言葉で申せば簡単に言えますが、仏道では坐禅です。悟道でも大悟十八、小悟その数を知らずとあります。芸道と同じです。一歩ずつ進むことでもあります。

柴田初太郎 発声法

肉休も命終れば、脳体は肉休を放れます。残骸と金銀財宝のみは残りません。自分で持つて行ける物として一つもないのです。死ぬまでの預りものであります。

これを悟ることは健康第一の条件につながります。他人の困ることを喜ぶ人は迷に自分も滅亡します。慎むべきであります。人に慈悲深い心のある人でなくては安全な人生を送ることはできず、たとえ出来ても来世はまたまた駄目になります。一番大切なことは腹を閉ざすことです。即開悟に徹することです。これはまず大腹を捨て去って、腹を閉ざすことですが、それは簡単に言いますが、大腹を空しくする方法は色々ありますが、仏道では坐禅です。悟道でも大悟十八、小悟その数を知らずとあります。芸道と同じです。一歩ずつ進むことでもあります。

筆者は観世流 (つとく)

各地で新能  
●神戸新能  
八月一日、二日の両日におわたって、神戸長田神社境内で開催。ことし第三回目。二日とも第一部、第二部で午後四時開演、能「小僧」「小娘治」「松風」「天鼓」

●姫路新能  
お城まつり協賛姫路新能が姫路城内三の丸特設舞台で八月七日開催。能「羽衣」(上田照也)「土蜘蛛」(観世元正)「狂言」(呼声)「浅山千五郎」

●大阪新能  
能楽協会大阪支部、大阪新能委員会主催、第十五回大阪新能は八月十一日、十二日二日間、生田神社境内で行なわれる。能は、第一日「大蛇」(辰巳孝三)「千手」(山本博之)「鞍馬天狗」(大西信久)「鼓馬天狗」(大西信久)「生田新能」(大西信久)

御料理 蓬菜軒  
本店 熱田区神戶町34 電話 (671)8686-8  
神宮東門店 熱田区新宮坂町1 電話 (682)5598(代表)

世界と結ぶ  
マツザカヤ!  
世界の優秀品を豊富にとりそろえました……



松坂屋

# 能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友  
名古屋市中千種区吹上本町2-20  
(郵便番号 464)  
電話 (731) 798  
振替口座 名古屋 3639  
購読料 1年 400円  
郵送の場合 1年 500円  
一 部 部 35円

## 秋の近江路を訪ねる 謡曲名所めぐり

10月10日実施 会員募集中

本紙では、昨年「謡曲名所めぐり」として、秋の近江路を訪ねるバスツアーを企画し、非常に好評を得ました。このたびは第三回「謡曲名所めぐり」として、秋の近江路を訪ねて、今秋十月十日(日)に催します。

数々の歌によまれた志賀の里と琵琶湖を中心に観月の名所石山寺に源氏物語の由緒をたずね(源氏供養)さらに天台宗寺門寺派の総本山園城寺(三井寺)逢坂山の関九神社(御丸)山科小野の随心院(通小町)等、謡曲のなかでも最も親しまれた名所めぐりを企画しております。

◇日時 十月十日(日)瀬戸観光貸切デラックスバス。  
集合 テレビ塔北側 8:20  
出発 8:30、帰着 19:30

題字は熱田神宮 後田富司筆

第十二回大衆能では、観世左近三十三回忌追善能(九月十二日)についで定式能、活発な各社中大衆能が催される。

とくに、十月には、狂言共同社創立八十周年記念会と二十四日の名匠鑑賞能が注目されよう。

名古屋狂言の伝統は、慶長十九年尾州藩祖徳川義直のときにはじまるが、明治維新により能、狂言界はあらためて生き抜く道に取りくまねばならなかった。そういうなかで明治二十四年六月角瀬新太郎、井上菊次郎(初代)伊勢門水、河村健三郎等が集って名古屋の狂言界を盛り立てて行こうという決意のもとに共同社が結成され、この「一致協力」の精神こそ共同社の今日の変わらぬ伝統の柱となつて芸道を支え伸ばしてきている。

この共同社八十周年を記念する催しは、能「石橋・連獅子」「橋弁慶」と狂言大曲「釣狐」はじめ「三本柱」「腰折」「引括」の四番

## 秋の中部能楽界

NHK第2毎週  
日曜午前8時~9時

9月19日(日)	観世流	「野宮」	観世静夫
		「阿漕」	梅若素之
26日(日)	観世流	「遊行柳」	山本博之ほか
10月3日(日)	宝生流	「三井寺」	宝生九郎ほか

NHK教育テレビ  
9月24日(祭) 金剛流 「花笠」 豊嶋弥左衛門ほか  
10時30分~12時

### 演能カレンダー

〔9月〕

12日(日)	観世左近三十三回忌追善能(有料)
18日(土)	妻の会 (番組①面)
19日(日)	中部金剛会 (米聴歓迎)
26日(日)	藤門会

〔10月〕

3日(日)	九草会
10日(日)	狂言共同社80周年記念会
17日(日)	名古屋淡文会
23日(土)	泉嘉夫 新作能
24日(日)	名匠鑑賞能
31日(日)	青陽会

—以上 熱田神宮能楽殿  
9月25日(土) 伊勢神宮神楽奉納 喜雲会全国大会 (内容多岐能舞台)

「雨天でも実施します」  
◇コース テレビ塔一各神ハイウェイ大津インターチェンジー石山寺(源氏供養)ー関九神社(御丸)ー山科・随心院(通小町)坂上田村麻呂の遺跡(田村)ー三井寺(三井寺)ー浜街道(竹生島)ー琵琶湖大橋(巴・兼平)ー栗東インターチェンジー名神ハイウェイー名古屋

書留、振替いずれも可)左記へ名古屋市中千種区吹上本町2-20 能 楽 の 友 社 (〒 四六四) 振替口座名古屋363993  
◇その他 お申し込み順に会員証をお送り致しますから当日ご持参下さい。

百番集または一番本をご持参下さい。一番本はコース案内のカッコ内の謡曲本をご持参下さい。

主催 能 楽 の 友 社  
電話 (731) 7984番

### 中部金剛会定式能(第二部)

九月十九日(日) 午後二時始

舞臺子	松	鶴	飛鳥川	松	鶴	飛鳥川
仕舞	龍	玉	龍	玉	龍	玉
独吟	花	玉	花	玉	花	玉
附祝言	山	姥	山	姥	山	姥

の、ワキも普通より大曲の位を取り、ワキの謡い出しの前に打切が入り、待講も位が重くなる。

田鍋惣太郎氏著小鼓笠謡による「半部」シテ大坪十喜雄、ワキ西博太郎、ワキ高安波郎、宝生流能会が演能。

観世流能「自然居士」シテ片山博太郎、ワキ高安波郎、宝生流能会が演能。

「半部」シテ大坪十喜雄、ワキ西博太郎、ワキ高安波郎、宝生流能会が演能。



### 能 三井寺

舞臺子	三井寺
仕舞	三井寺
独吟	三井寺
附祝言	三井寺



かきこすす  
かすか山  
十松金剛井  
七(22)豆。

## 檜 書 店

親 世 流・金 剛 流  
宗 家 本 発 行 元

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1  
〒604 京都市中京区二条通敷屋町東入

電話 (291) 2488-9  
東京 3552  
(231) 1990  
都 京 113

欧風料  
とんか













東京新聞  
中日新聞  
中入部  
東京中日スポーツ  
月刊 岳人

地域と共に生きる——  
**中日新聞**

# 能楽の友

発行 能楽の友  
名古屋千種区吹上本町2-2  
(郵便番号 464)  
電話 (731) 7984  
振替口座 名古屋 36393  
購読料 1年 400円  
郵送の場合 1年 500円  
— 部 35円

題字は熱田神宮 後田宮司筆

## 24日に名匠鑑賞

11月7日 風韻会30周年記念

各社中大会も盛大に

名古屋能楽界の十月の演能は、名古屋市中区千種区吹上本町2-2の名古屋市が毎年行なう名古屋市民

### 観世会47年度 定式能予定番組

名古屋観世会は、昭和四十七年度定式能の日程と予定番組を次のように決定した。

初回 二月十三日	忠度 親世 元正
和合之舞	親世 喜之
鞍馬天狗	親世 元昭
山頭	
第二回 四月十六日	景清 梅若 万三郎
雲林院	山本 博之
奏上	片山 博太郎
第三回 六月十八日	敦盛 親世 静夫
班女	大西 信久
天鼓	橋岡 久共
弄鼓	
第四回 十一月十九日	頼政 梅若 六郎
半部	親世 静之丞
鉄輪	大槻 秀夫

なお会費は指定券(年額)

熱田能楽殿では、十一月七日風韻会(殿島修三師)が創立三十周年を迎え、この記念能を開催、能「花月」「班女」「狸々乱」の三番で、とくに記念能にふさわしい「狸々乱」は福間川作氏の技で演ぜられる。

### 宝生流能楽団

明年九月渡独 明年、西ドイツ・ミュンヘンで開催される第二十回オリンピック大会を記念する国際芸術展示に、日本文化使節として、宝生流能楽団が外務省から派遣される。

### 社中会だより

金剛流 山田社中 春鶯会 11月21日 金剛流春鶯会(山田三郎師)は、十一月二十一日名古屋駅前、松岡旅館で秋季大会を開催、舞臺子、仕舞十数番

### 掬水会

掬水会(柴田初太郎師)では、十一月二十三日(祭)本山、柴田舞臺で故植村真太郎氏追善会を開催する。

### NHK第2毎週 日曜午前8時~9時

10日(日)	親世 流	松	風	親世元昭ほか
17日(日)	喜多 流	小	治	栗谷新太郎ほか
24日(日)	親世 流	一角	人	福岡周斎ほか
31日(日)	金剛 流	井	小	片山博太郎ほか

### 此水会追善素謡会

11月28日 円勝寺で 此水会(高野瀬達師)では、同門関係者等の追善として、十一月二十八日(日)東区、飯田町・円勝寺で午前十時から秋季追善素謡会を開催する。

### 八鼓会 岐阜

八鼓会(鬼頭八郎師)は、十一月二十八日、岐阜で大会を開催する。後援長生会

### 演能カレンダー

(10月)	10日(日)	狂言共同社80周年記念会
	17日(日)	名古屋淡文会
	23日(土)	泉嘉夫 新作能 (有)
	24日(日)	名匠鑑賞能 (有)
	31日(日)	青陽会 (有)
(11月)	3日(祭)	幸友会 (来聴歓迎)
	7日(日)	風韻会創立30周年記念能 (来聴歓迎)
	13日(土)	一福会・叶石会 (来聴歓迎)
	14日(日)	竹韻会大会 (来聴歓迎)
	21日(日)	観世会定式能 (有)
	23日(祭)	山本銀衛会

—以上 熱田神宮能楽殿

### 演能案内

名古屋市民芸術祭参加 名匠鑑賞能(第六十五回) 十月二十四日(日曜日)午後一時始 熱田神宮能楽殿

舞臺子 養	老	大江又三郎	吉田 定男	寛助川 三男
水波之伝	水波之伝	水波之伝	水波之伝	水波之伝

### 能小鍛治

泉 嘉次	大槻 文蔵	後見 西村 欽也	吉田 定男	寛助川 三男
後見 黒頭 高安 勝久	後見 友彦	後見 友彦	後見 友彦	後見 友彦

### 能定家

大槻 秀夫	西村 欽也	河村 欽一郎	藤田 六郎兵衛
後見 橋岡 久馬 三郎	地謡 増田 元三	地謡 増田 元三	地謡 増田 元三

### 能狐塚

後見 柴田 初太郎	地謡 増田 元三	地謡 増田 元三	地謡 増田 元三
後見 井上 松次郎	地謡 井上 松次郎	地謡 井上 松次郎	地謡 井上 松次郎

### 能花龍

後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄
後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄

### 能狸々乱

後見 高安 勝久	後見 高安 勝久	後見 高安 勝久	後見 高安 勝久
後見 高安 勝久	後見 高安 勝久	後見 高安 勝久	後見 高安 勝久

### 能善阿花龍

後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄
後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄	後見 高橋 秀雄

11月6日 鈴鹿市鈴鹿文化講堂  
で、親世、宝生、喜多三流舞臺子  
会。  
能「が催された。  
番組は能「清経」(シテ塚本和  
男、ツレ中川雅章、ワキ吉井孝之  
の)  
同封にて振替用紙をお送り致して  
いただきますのでご協力下さい。

のねが  
本紙購読につきましては新聞と  
同封にて振替用紙をお送り致して  
いただきますのでご協力下さい。

して臀部を後へ引く様  
にするのです。この姿  
勢が仕舞及び謡の姿勢  
であります。  
また新起まで、洗面  
の

蔵  
名

# 能紀行

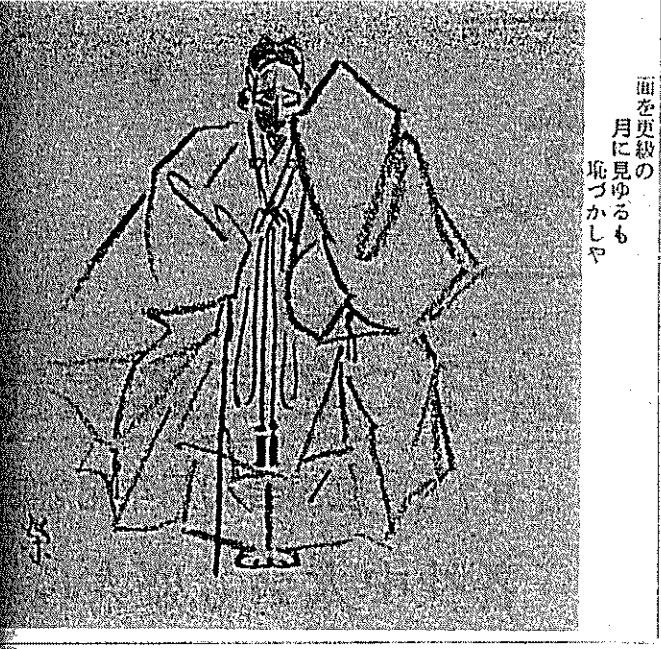
## 冷えたる能

文と絵 二井栄逸

世阿弥元清は花鏡の中に、能に見・聞・心の三つがあるというこを書いています。世阿弥の芸術思想はまことに深淵きわまりないもので能に限らず、すべての芸術に通じる思想であった。

見（けん）の能とは、舞歌の達者が舞うように寸分のすきもなく梅柳繁華で、能通の人にも、さほど能に通じていない人にも面白く感じられる能をいう。

聞（もん）より出てくる能とは何となく人の心に入り込んでくるように、リズムカルで面白く、観者をうっとりさせるような能をいう。しかし、この能の妙味は能を見なれた者でないと分らない。



面を更級の月に見ゆるも 垢づかしや

# 拍子謡について

大槻秀夫

赤とんぼが飛び交うすき野原には、秋風が心のうさを払うようににそそろくと吹いている。空の青さはますます深くなってきた。能面の個性は、暑い時であったので相当体にこたえたが、すき野原の秋風に吹かれていくと、身も心もかるやかになつてくる。個體には、和島夫妻、北岸さん、片岡仁左衛門さん、京都の染色技術連盟の杉尾さん、阪大総長であった岡田さん等、又松下電器の河合さん、名古屋からは私の後援会の浅井さん等、忙しい時間をさいて来て下さったことはほんとうに嬉しかった。来年は、東京の三越か、名古屋の松坂屋かまだきまていないが、ほつぽつ制作にかかるとにした。

各地だより  
桃山能を復元  
親世流片山博太郎後援会（吉村三郎会長）では、さきに西本願寺の国宝北能舞台で演能をこころみなが十月十二日の秋の例会には同じく国宝・書院での演能が行なわれた。曲目は、半能「屋島」、小書写流「シテ片山博太郎、ワキ岡田右衛門、能「葵上」小書写流・空之折、シテ片山博太郎、ワキ高安滋郎の諸師。

東京中日五流能  
東京中日五流能は、十月三十一日、東京三宅坂の国立劇場大劇場で催されるが、喜多流能「船弁慶」（シテ後藤得三師）のワキに高安滋郎師、親世流能「安宅」（シテ親世喜師）の笛に藤田六郎兵衛師が出動する。中日五流能の番組は次のとおり

# 演能案内

## 創立三十周年記念能

### 風韻会大会

十一月七日（日）午前九時三十分始  
熱田神宮能楽殿

清経 (クセ抜ク)	中村喜久子 伊藤しゅん 高橋香代子	松風連	山田富美 長谷川健子	五雲独吟	山田和子 豊子	女部花仕	鹿田豊子	通小町	奥村久枝 竹内陽子	船井慶	竹内陽子	千手 (クリ、サン、クセ抜ク)	古井春子 島津春子 御代紀代	花盛	原伊三男 長谷川実 中村克巳	藤丸 (クリ、サン、クセ抜ク)	山上楠枝 吉岡當子	龍田調	日比大吉郎	鶴亀	守部啓子	吉野天人	滝川節子	松虫	奥田薫	百萬	殿島瀧里子	花月	渡辺節子 高安滋郎 佐藤友彦
-----------	-------------------------	-----	---------------	------	------------	------	------	-----	--------------	-----	------	-----------------	----------------------	----	----------------------	-----------------	--------------	-----	-------	----	------	------	------	----	-----	----	-------	----	----------------------

## 能班

### 野守殿

三木美智子  
西村欽也  
高安勝久  
井上松次郎  
河村総一郎  
後藤孝一郎  
藤田昭彦

野山伏 狂言  
大野弘之  
鬼頭貴代子  
井上礼之助  
木村晴子  
河村総一郎  
西本康敏  
河村総一郎  
高井敏雄

能乱 (狸みだれ)  
高安滋郎  
田鍋惣一郎  
寛助川三男  
深谷川恵一  
長谷川実  
中村克巳

祝言 番外仕舞  
大槻文蔵  
大槻秀夫  
殿島修二

御来場歓迎  
銀世会定式能  
十一月廿一日（日）午前十一時始  
熱田神宮能楽殿

自然居士  
西村欽也  
高安勝久  
河村総一郎  
寛三男

狂言 鎌腹  
和泉保之  
井上礼之助  
佐藤秀雄

野宮  
久保田千三郎  
寛助川三男  
藤田六郎兵衛

任舞 花月  
片山慶次郎  
山本真義

江葉野  
高安勝久  
河村総一郎  
寛三男

価格 2500円 90円  
十音順  
・紅葉付・野・窠人鼓







観能雑感

観世左近三十 三回忌追善能

演能は観客と演者とが一つに成り立って初めて成り立つことは、当然のことだが、その両者の関係が「見せるもの」と「見られるもの」と

能の演者にとって終始向き合っているものは、シテにとってのツキではなく、まして観客ではない。そして観客にとっても演者そのものでもあるまい。それは能面であり、これから舞台上に生動させる世界と云える。

演技を防いでくれる。そして、観客に席を占めさせる十分な広がりも言えそうである。しかし同時にそこには、舞台へと迫り上る力を欠くと生々とした演技を失わせ魅

私の健康法につながる

今世の中は、現代人は時間に使われて暮らすような時代です。人間が、時間に使われては不幸です。

い、テープが前へ口より外へ放れゆるゆるではだめとのこと、結局温い、やわらかい蒸気が出るような発声です。私は時々掌(てのひら)を口の前に当てて試験します。

能楽の友

九月十八、廿二、廿三日の間、表舞台にて祝賀能を行なうお趣。『明后十八日、御本丸御能御座

五週年記念に寄せて

御与力来御遊園次第、御白洲入可申候。其節無作法無之様可仕候。

観能のしおり

10月24日 名匠鑑賞能 11月7日 風韻会記念能

観能のしおり

10月24日 名匠鑑賞能 11月7日 風韻会記念能

観能のしおり

祝言能の傑作で、赤づくめのけんらんたる装束で舞う姿は、一幅の絵巻物である。足を蹴るよう

幽詠会演能

十月十七日、福井市・福井市民会館で、片山博士太郎主宰の幽詠会が演能。

友社の表 欠上本町2-20 464) 7 9 8 4 歴 3 6 3 9 3 出 400 円 年 500 円 年 35

共同社80年記念会 秋の中部能楽界 第十二回大衆能ではじまった中で催される。

購買料払込みのおねがい 本紙購読につきまして新聞と同封にて振替用紙をお送り致して

中部金剛会会員謡曲囃子会 九月十九日(日) 午前十時始 熱田神宮 能楽殿

法皇 水谷 泰典 御料理 蓬菜軒 本店 熱田区神戸町3-4 電話(671)8686-8

店 2488-9 35520 31999 113 名古屋市千種区大久手町4-11 TEL731-3680 御料理 蓬菜軒 本店 熱田区神戸町3-4 電話(671)8686-8 本宮東門店 熱田区新宮坂町1 電話(682)5598(代表)

願いは あたたかい心のつながり

対話がはずむ

**東海銀行**

# 能楽の友

発行 能楽の友

名古屋千種区吹上本町2-2  
(郵便番号 464)

電話 (731) 798  
振替口座 名古屋 3639

購読料 1年 400円  
郵送の場合 1年 500円

一 部 35円

〒464-0202 名古屋千種区吹上本町2-2 能楽協会の友 編集 藤田富司



這ひ纏はるるや  
定家葛の

定家のスケッチ  
二井栄逸  
(能紀行@面)

**11月放送予定** NHK第2毎週 日曜午前8時~9時

14日(日)	宝生流	「経政」	今井泰男ほか
		「清経」	渡辺三郎ほか
21日(日)	金春流	「葛城」	桜間金太郎ほか
28日(日)	親世流	「大原御幸」	大江又三郎ほか

**演能カレンダー**

〔11月〕

7日(日)	風韻会創立30周年記念能	(来聴歓迎)
13日(土)	一韻会・叶石会	(来聴歓迎)
14日(日)	竹韻会大会	(来聴歓迎)
21日(日)	親世会定式能	(有 料) (番組@面)
23日(祭)	山本観能会	

〔12月〕

5日(日)	歳末助け合い 義捐金募集能	(有 料)
12日(日)	宝生会定式能	(有 料)
15日(水)	高校生観能会	(番組@面)
19日(日)	楽師会乱能	

〔47年1月〕

16日(日)	名古屋清韻会50周年記念能	(有 料)
--------	---------------	-------

—以上 熱田神宮能楽殿

能楽協会名古屋支部(支部長 藤田富司)では、昭和四十四年から歳末助け合い運動に協賛して、義捐金募集能を公演、能楽愛好者の暖かい理解と協力によって盛大に催され、愛知県、名古屋市にそれぞれ義捐金を寄託してきたが、ことし第三回の義捐金募集能をきたる十二月五日(日)熱田神宮能楽殿で催すことになった。

この歳末義捐能は、東京、名古屋、大阪で行なわれ、能楽協会の社会福祉活動として社会的な評価を博している。

名古屋では、能楽協会名古屋支部主催のもと、愛知県、名古屋市、

ことしの義捐能の能組は二面掲載のとおりで、昨年までは、第一部、第二部に分けて上演されたが、今回は分けずに、能三番が上演されることになっている。

この歳末義捐能は、東京、名古屋、大阪で行なわれ、能楽協会の社会福祉活動として社会的な評価を博している。

会費は千円、番組のあらましは本紙@面のとおりである。

## 能楽協会 名古屋支部 12月5日能楽殿で

以上、条件を得得せられて毎日十分間でもよろしい。別に大書を発せずとも口の前後へテープを下げそのテープが前方へ吹込みの音

喜多流シテ方、和谷也二郎氏の長男衛市氏は、喜多流シテ方二井栄逸氏長女香代子さんと婚約式をさる七日、伊勢津かいづ結納式場

以上、条件を得得せられて毎日十分間でもよろしい。別に大書を発せずとも口の前後へテープを下げそのテープが前方へ吹込みの音

阿漕	紅葉	山姥	班女	百万	草子洗小町	高砂	川瀬	俊寛	小袖曾我	融	天鼓	紅葉狩	杜若	吉野天人	羽衣	清経	雲雀	弱法師	熊野	鉢木	船辨慶	養老	小督	富士太鼓	半部	東北	野守	田村		
遠藤 俊雄	澄川 幸子	海田トシ子	近藤 重次	太田 喜昭	桐山 敏弘	富永 一郎	高安 滋郎	若杉 栄	伊藤 兼吉	山崎 晴代	村木 寿恵子	藤田 高代子	佐藤 ゆき子	藤田 高代子	内田 睦子	松田 とめ	増田 糸	林 千鶴	長戸 花子	丹羽 麻子	高木 のぶ	河内 衣子	中村 錦子	丹羽 麻子	和波 敏子	谷川 道雄	浦田 真三	寺西 弘次	新谷 重徳	
福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎

竹韻会四十周年記念 十一月十四日(日曜日)午前九時始

阿漕	紅葉	山姥	班女	百万	草子洗小町	高砂	川瀬	俊寛	小袖曾我	融	天鼓	紅葉狩	杜若	吉野天人	羽衣	清経	雲雀	弱法師	熊野	鉢木	船辨慶	養老	小督	富士太鼓	半部	東北	野守	田村		
遠藤 俊雄	澄川 幸子	海田トシ子	近藤 重次	太田 喜昭	桐山 敏弘	富永 一郎	高安 滋郎	若杉 栄	伊藤 兼吉	山崎 晴代	村木 寿恵子	藤田 高代子	佐藤 ゆき子	藤田 高代子	内田 睦子	松田 とめ	増田 糸	林 千鶴	長戸 花子	丹羽 麻子	高木 のぶ	河内 衣子	中村 錦子	丹羽 麻子	和波 敏子	谷川 道雄	浦田 真三	寺西 弘次	新谷 重徳	
福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎	福井 啓次郎

温故

基

喜多流シテ方、和谷也二郎氏の長男衛市氏は、喜多流シテ方二井栄逸氏長女香代子さんと婚約式をさる七日、伊勢津かいづ結納式場

以上、条件を得得せられて毎日十分間でもよろしい。別に大書を発せずとも口の前後へテープを下げそのテープが前方へ吹込みの音

近心ビジネス



# 行 紀 能

## 葛 家 定

逸 栄 井 二 文 と 絵

も天才で鎌倉初期文壇の指導者であり、最大の歌人であった。この二人の間にこういふ話の伝えられた事も何か王朝的な情趣として受けとれるのである。

今も京都市上京区今出川千本東股舟院前町の後柏原天皇の御母をまつる斎王院殿の傍に式子内親王の墓があり、そのあたりに定家かづらが生いっけついている。定家かづら、定家が山荘として小倉百人一首を撰じたという尾崎が、ひっそりと磯原野の奥に静まっていた。尾崎の名は厭離庵という。

きた国からはるばる都に上る旅僧。神無月なかばの夕空。冬枯の樹々の梢に残る紅葉。時雨。時雨の亭。このようなしみじみした舞臺に定家の能は始まる。やがて式



子内親王の霊が現われ、昔、定家と契り結びし事よりやがて二人の死後、内親王の墓石に定家の執念がかづらとなつてはいま悲恋の苦しみ耐えられない事を語るが、旅僧の回向によって、執念のかづらが解け、成仏の喜びに報恩の舞をまい、もとの墓石に入る。

前段は物哀しい夕時雨の中に静かに往事を語るのみで、殆んど所作は無いが、能の妙趣は夕時雨の音とともに心にしみしみとしてくる。

後段は娘女の序ノ舞という皮肉なもの。花やかな若さがあるわけではなく、しかも老い朽ちた姿でもなく、悩み衰えながらも、昔の麗らしさを序ノ舞に示さなければならぬのである。まことに高度の

能といつてよい。

大小(原御幸、揚貴妃とあわせ三婦人ともいわれている重曲である。

熱烈な男性の愛欲と、冷徹な女性の翻弄(ほんろう)を巧みに描いたもの。男性の情熱にほだされゆく女性を描いたもの。他の女性にひかれて心がさめてゆく夫に嫉妬の炎をもちやう女性を描いたもの、又、シエロクスピア初期のロマン悲劇、ロマオとジュリエットのように、互いに敵視する二名門の息子と息女でありながら一日で恋で落ち、雨夜の悲しい和解を残して共に死んでゆく相愛の二人等。古えから男女の愛の葛藤は、かすかすの各作を残している。

チョコキン。花鏡で定家葛の枝を落としたがそんなことを考える。何となく藤原定家の執念が思っているようなこの葛、白さびかには又心にいく程よく調和するのである。

洛西極楽。もう静けさが一段と深まったであろう。厭離庵には定家の墓や、定家脚が使ったという「御の水」という泉や、時雨の亭跡があり、一人の尼僧が清らかに住んでいるのである。

「さわがしき、世をばい」といって、離れ住む、磯原野の庵よ、ゆるせ諸人、という歌を示して一般來観者の深く入るのを断っているとか。さもあらざると私は心にしみじみとしたものを感じながら定家かづらを生けつづける。

(スケッチは定家葛と定家の舞台①②)

### 観能雑感 N生

#### 第六十五回 名匠鑑賞能

たとは「定家」なら誰々の「定家」と言われるように、能で演者の個性が尊重される事があ

しかもそれは安易に繰り返すことが可能でなく、ある日ある演能での一回的な演技においてあらわれるものである。なにもそれは、名人と言われる様な人でなくとも、その演者なりの一回的な表現があるし、それは観る者にとって一つの大きな楽しみである。

とりわけ若い演者にとって、個性は生来そなわっていたとしてもいつも発見出来、一度発見出来たらそのまゝ持続されるものでなく、ある日ある演能で店突に現われ、そして又次の機会には消え去る事もあろう。それは演者によって発見出来るものであり、演者が舞台の一場面(で)でそれまでの演技を塗り変えていく姿のうちに現われる様に思われる。

舞台が貴重な稽古場になりえた者にとって、個性はその過程のうちに見られると言えよう。つまりそれはある演能が、次の演能への一段階ではなく、演能の場が一つの過程と言ふ全体でなくてはならぬ事を意味している。そして昨日迄の最高ものを披露しようとする際の構え、まして単に舞台に加わっている様な事を求めてはいない。文字通り舞台に参加して一つの段を責任を持って演じられたなかに、他とは異なる、従ってそれ迄の演技とは異なる表現が現われている事を意味している。

それ故個性の表現とは、恣意的な態度や演能全体の調和を乱す様な姿から生まれるものではない。この日の演能では若い演者の中に、演技の長短は別にして、舞台を貴重な稽古場とみず、たゞ加わっているだけかあるいは堅い構えた姿勢が見てとれ、演能全体の調和を乱した事(定家の地謡等)があった事は残念であった。

その似た姿勢では、舞台で出生

### 観能雑感 N生

#### 第五回 十一月廿一日(日)午前十一時始

熱田神宮 能楽殿

後藤 繁三

尾関 健太郎

竹内 六郎

原本 秀雄

西村 欽也

河村 欽一郎

田嶋 忠一郎

三男

青木 武弘

久田 秀雄

片山 慶次郎

上田 小照也

武田 小兵衛

加藤 保彦

家本 秀雄

片山 慶次郎

殿島 修二

藤田 六郎兵衛

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎

藤井 久雄

青木 祥二

梅田 邦久

片山 慶次郎



井上礼之助 内藤泰二 柴田初太郎

能楽協会名古屋支部

狂言 昆布壳 佐藤三郎 井上松次郎

須賀千代子 戸田和子 竹内澄子 倉本雅

河村総一郎 後藤孝三郎 鬼頭喜太郎 田中昭彦

# 拍子謡について

## 大槻秀夫

### ◎羽衣一曲(その二)

上歌の終りにもウキがあつて、ウキはその間に釣竿を捨て、「我三保の松原に上り」と詞になる。そして「いかさま取りて帰る古き人にも見せ」と天人の衣を持ち帰ろうとする時、シテの呼掛(よびかけ)となる。

「目の前に見えてあましましや」「羨ましき気色かな」「天路を開けば懐かしや」「空に吹くまで懐かしや」。その他の句は三地謡にするが、打切の前の「遍路の如く馴れ馴れし」は前記の如く、第五拍の処の生ミ字はつけて、それよりユルメて打切にするのである。

拍子の割付は左の通りである。

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

「住み馴れし」(トりの間)

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

「おびんがの馴れ馴れし」

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

1 2 3 4 5 6 7 8

### 第三回謡曲名所めぐり

能楽の女社主催第三回謡曲名所めぐり、「秋の近江路を訪ねる」バスツアーは、さる十月十日、四十余人が参加して催された。

当日は、前夜から雨模様であったが、名古屋市内は曇り、各地から同好の方々が参加、午前八時半瀬戸親光デラックスバスで名古屋テレビ塔を出発、車中にて「巴」仲寺に詣り、蟬丸神社本殿にて、「蟬丸」を誦し記念スタンプのサービスもあ

り今は復しく荒れた小町塚にも参拝、さらに逢坂の関を経て、山科洛南、小野の随心院に到着、庭園美にかこまれた九条家より寄贈の能の間に「通小町」を奉納、小町化粧井戸文家など、小野小町のゆかりをしのび、午後四時随心院をあとにして、三井寺に到着、時間都合にて山門で参拝をすませ再び大津ICから名神ハイウェイに入り「三井寺」に「竹生島」などを誦しつつ午後七時半つががく帰りました。

なお同人として、殿島修二師が同行された。(加野記)

(写真)①石山寺にての記念撮影 ②謡曲「通小町」随心院能舞台上にて



能楽の女社主催第三回謡曲名所めぐり「秋の近江路を訪ねる」バスツアーは、さる十月十日、四十余人が参加して催された。



(写真)①石山寺にての記念撮影 ②謡曲「通小町」随心院能舞台上にて

御宴会・御集会・御商談等には是非御座敷を御利用下さい

# 中華料理 桃源亭

中区栄三丁目29(松坂屋南) 電話 241-2938・6081 支店 名鉄百貨店9階 のれん茶屋

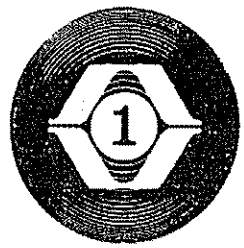
流元 剛行 金本 流本 世宗 観宗

# 檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291) 2488-9 3552-3 3552-3 電話(231) 1990-1 1113







現代をみつめる眼  
東海テレビ

# 能楽の友

発行 能楽の友社  
名古屋千種区吹上本町2-20  
(郵便番号 464)  
電話 (731) 7984  
振替口座 名古屋 36393  
購読料 1年 400円  
郵送の場合 1年 500円  
一 部 35円

「エオ」の五字であります。英字では「AUDIO」であります。この五音を色に替えますと能楽の音の響きとなりませう。青黄赤

## 名古屋清韻会 50周年記念能

1月16日熱田能楽殿で  
≡新しい年への課題≡

NHK第2毎週 日曜午前8時~9時  
12月放送予定  
12日(日) 宝生流「竹」 大坪十喜雄ほか  
19日(日) 親世流「和布刈」 浅見重弘ほか  
和泉流狂言「木六駄」 野村万蔵ほか  
26日(日) 親世流「花」 上野朝太郎ほか  
(テレビ)  
12月14日(火) 午後7時から  
宝生流能「半」 宝生九郎ほか

昭和四十六年は、まさしく「変化の年」として、国の内外とも大きく揺れ動いた年であった。とくに思潮面では、あらためて「生き甲斐」の問題をさまざまな形で提起している。能楽界もこうした大きな潮流を背景として、より大きな

新春の能・狂言放送  
NHKテレビ・ラジオ番組  
NHKでは、年末年始の特別番組として、テレビ、ラジオで能狂言を放送する。  
曲名予定は次のとおり。  
〔テレビ〕  
▽12月31日(金)  
能(金春流)「熊坂」松間金太郎、森茂好(46・9・15日の再放送)  
▽1月1日(祝) 午前9:00~10:00(カラー)  
能(喜多流)「鉢木」喜多実、宝生流「藤田大五郎」幸祥光、安福春雄  
▽1月2日(日)  
新春狂言(カラー)  
新春狂言(カラー)  
大蔵能「末広がり」茂山千作、茂山千五郎、善竹忠一郎  
和泉流「孫山伏」野村万蔵、野村万之丞、野村万作  
〔ラジオ〕  
新春五流謡曲  
▽1月1日(祝)  
「翁」(喜多流)「羽衣」(金春流)「老松」(金剛流)「盛久」(宝生流)「小鍛冶」(親世流)  
▽1月2日  
一調「海士」独吟「梅」ほか  
東西狂言  
▽1月3日  
「入間川」「養抱落」ほか

中流能楽界では、熱田能楽殿での演能は盛んで、各流の定式能に加え、記念能も数多く催された。能楽の友社の五周年記念能もこの一環として七月に催すことができた。  
ことしの掉尾をかざる十二月の演能は、五日の「歳末助け合い義捐金募集能」十二日の宝生会定式能、十九日に楽師会乱能が催される。新春には、一月十六日、「名古屋清韻会五十周年記念能」、三十日「名古屋親衛会三十五周年記念能」と二つの記念能が期待される。新しく迎える年の文化面の課題は、人間の復権、だとされる。

新観世会館建設募金  
明年四月に舞台披露  
社団法人親世会(親世元正理事長)では、既報のように東京都渋谷区松涛町に総工費七億円で新観世会館の建設に着手し、十一月二十五日上棟、明年三月中に竣工、四月に舞台披露の予定で工事をすすめており、その完成が期待されている。  
なお同会ではこの建設資金の一部を能楽愛好者の理解ある援助御寄付を願う意味で一口五万円を寄付金の申込みを受けている。

### 演能カレンダー

〔12月〕  
12日(日) 宝生会定式能 (有) (番組①)  
15日(水) 高校生観能会  
19日(日) 楽師会乱能 (有) (番組①)

〔47年1月〕  
3日(日) 能楽協会名古屋支部 新年開初式  
7日(金) 学生能楽連盟能  
16日(日) 名古屋清韻会50周年記念能 (番組②面) (有)  
23日(日) 和島富太郎、泉 嘉夫、野村又三郎の三人を観る会 (有)  
30日(日) 名古屋親衛会 山本博之喜寿 来名35年記念祝賀別能 (番組②面)

—以上 熱田能楽殿

### 演能案内

第十五期・第三回  
名古屋宝生会定式能  
十二月十二日(日) 午後一時始  
熱田神宮 能楽殿

戸田 秀雄	竹腰 勝一	吉田 俊彦
藤田 義久	稲川 義久	吉田 俊彦
藤田 義久	稲川 義久	吉田 俊彦
藤田 義久	稲川 義久	吉田 俊彦

紅葉狩	間	後見	竹腰 勝一	藤田 義久	稲川 義久	吉田 俊彦
紅葉狩	間	後見	竹腰 勝一	藤田 義久	稲川 義久	吉田 俊彦
紅葉狩	間	後見	竹腰 勝一	藤田 義久	稲川 義久	吉田 俊彦

### 楽師会乱能

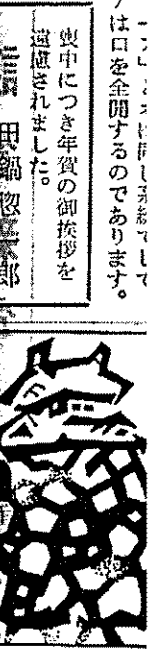
十二月十九日(日) 正午始  
熱田神宮 能楽殿

田鍋惣太郎	井上松次郎	内藤 泰三
後見	田鍋惣太郎	内藤 泰三
後見	田鍋惣太郎	内藤 泰三

狂言骨	皮	山口 義郎
狂言骨	皮	山口 義郎
狂言骨	皮	山口 義郎

能舟弁慶	前後替	柳原富司忠	高安 滋郎	梅田 秀邦
能舟弁慶	前後替	柳原富司忠	高安 滋郎	梅田 秀邦
能舟弁慶	前後替	柳原富司忠	高安 滋郎	梅田 秀邦

以上のように教えておられます。最初の半年位と考え毎日其練習をしてくださいませ。謡の稽古の前提としてトレーニングをしてください。最初は毎日「エオ」の五音を色に替えますと能楽の音の響きとなりませう。青黄赤



本神宮東門  
電話九七二二四二九番







